



マイナビ進学総合研究所

オープンキャンパス実態調査

INDEX

| | | | |
|---|------|--|------|
| I. イベント参加のべ総数（推計） | P.3 | イベントに参加しても知ることができなかった内容と理由（一部抜粋） | P.31 |
| イベント参加のべ総数（推計）サマリー | P.4 | イベント告知において満足度が上がったポイント | P.32 |
| イベント参加のべ総数（推計） | P.5 | 事前予約関連で満足度が上がったポイント | P.33 |
| イベント参加のべ総数（推計）のバブルチャート | P.12 | 家から学校に到着するまでの間で満足度が上がったポイント | P.34 |
| II. 調査概要 | P.13 | （場面ごとの）学生スタッフや在学生において志望度・満足度が上がったポイント | P.35 |
| 調査概要 | P.14 | （場面ごとの）教職員において志望度・満足度が上がったポイント | P.40 |
| 設問の流れ | P.15 | 場面ごとの学生スタッフや在学生／教職員における志望度・満足度が上がったポイントまとめ | P.45 |
| III. 出願する／出願しないと決めたイベント参加校について | P.16 | 施設・設備において志望度・満足度が上がったポイント | P.46 |
| 出願する／出願しないと決めたイベント参加校についてサマリー | P.17 | 参加後の各項目における理解度 | P.47 |
| イベント参加回数 | P.18 | 参加後の各項目における自分をイメージできたか | P.48 |
| 出願する／出願しないと決まった回数 | P.19 | IV. イベント全般について | P.49 |
| イベント認知のきっかけ（情報媒体） | P.20 | マイナスイメージも含めて説明してくれることに良い印象を抱くか | P.50 |
| 事前申込の有無 | P.21 | 前問でそう答えた理由（一部抜粋） | P.51 |
| イベント同伴者 | P.22 | 「雰囲気が良い」とは具体的に何を意味するか | P.52 |
| イベント参加のきっかけとなったプログラム | P.23 | 参加した目的 | P.53 |
| 最もイベント参加のきっかけとなったプログラム | P.24 | V. 総括 | P.54 |
| 実際に参加したプログラム | P.25 | 総括 | P.55 |
| 志望度が上がったプログラム | P.26 | | |
| 志望度が下がったプログラム | P.27 | | |
| イベント参加きっかけ／実際に参加／志望度が上がった／志望度が下がったプログラム | P.28 | | |
| 参加前に調べた内容 | P.29 | | |
| 事前に知りたかったことの解消 | P.30 | | |



1. イベント参加のべ総数（推計）

< 推計方法 >

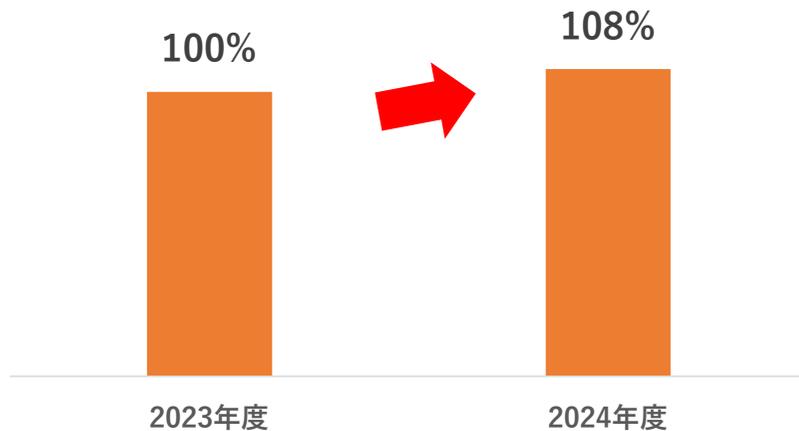
- ・ イベント参加のべ総数 = 全国全日制本科高校生数 × イベント参加割合 × 平均参加校数 として推計した。
- ・ 全国高校生数は文部科学省「学校基本調査」の数値を用いた。
- ・ イベント参加割合及び平均参加校数は、「マイナビ進学会員定期調査」※の結果を用いた。
※2022年9月、2023年9月、2024年9月実施の調査データを用いた。
- ・ 一昨年度（2022年度）または昨年度（2023年度）のイベント参加のべ総数推計値を100%とし、2024年度推計値の対比割合を、大学及び短大、専門学校とそれぞれに示す。
 - ・ 「各市場の参加のべ総数」（P.12）は大学、短大、専門学校の2023年度の進学率を乗じて推計した。

参加のべ総数は「リアル形式」が増え、「オンライン形式」は減っている。 イベント市場はアフターコロナへ。

- 希望進学先区分を問わず、2023年度よりも2024年度の「リアル形式」の参加のべ総数は増えている。
「参加割合」がどの区分でも増えており、「平均参加校数」も大学・短大希望の3年生と専門希望の1,2年生が増えていることが要因である。（P.5,7）
- 希望進学先区分を問わず、2023年度よりも2024年度の「オンライン形式」の参加のべ総数は減っている。
「参加割合」がどの区分でも減っていることが要因である。（P.6,8）
- 「リアル形式」「オンライン形式」両方をあわせると、2022年度から1,2年生はほぼ横ばい、3年生は微増している。（P.9）
- アフターコロナとなった今、「オンライン形式」のイベントは遠方の高校生獲得に注力するなど「リアル形式」とは差別化していくことが必要であると言えそうだ。

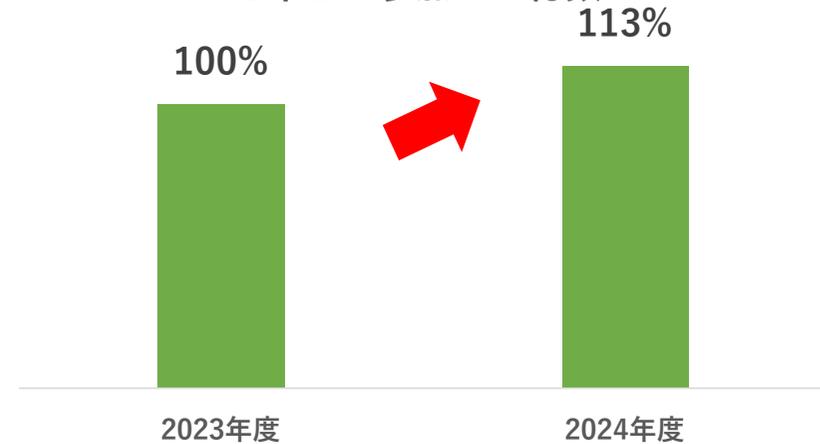
「大学及び短大」の「リアル形式」イベント；参加のべ総数昨対比（推計）

1・2年生の参加のべ総数



- ・ 全国1・2年数 減↓ (193万人→190万人)
- ・ 全国参加割合 増↑ (69.0%→75.3%)
- ・ 平均参加校数 同→ (2.5校→2.5校)

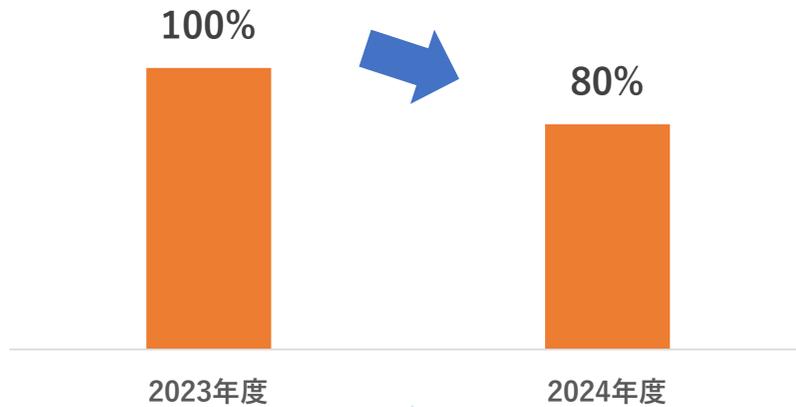
3年生の参加のべ総数



- ・ 全国3年生数 増↑ (91万人→92万人)
- ・ 全国参加割合 増↑ (89.4%→91.2%)
- ・ 平均参加校数 増↑ (3.1校→3.4校)

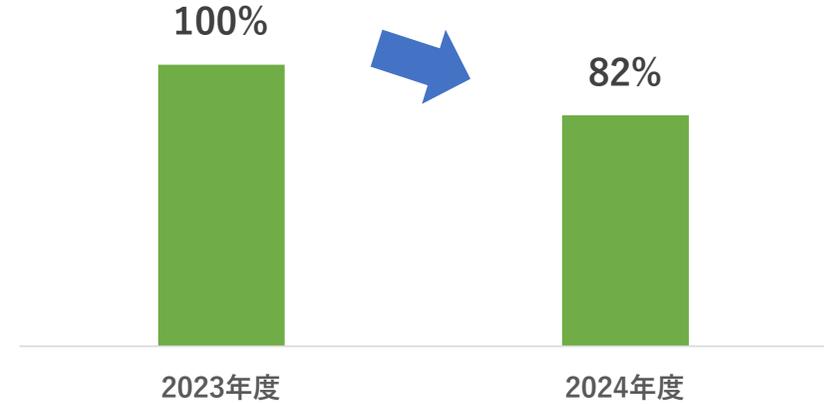
「大学及び短大」の「オンライン形式」イベント；参加のべ総数昨対比（推計）

1・2年生の参加のべ総数



- ・ 全国1・2年数 減↓ (193万人→190万人)
- ・ 全国参加割合 減↓ (29.9%→25.0%)
- ・ 平均参加校数 減↓ (1.9校→1.8校)

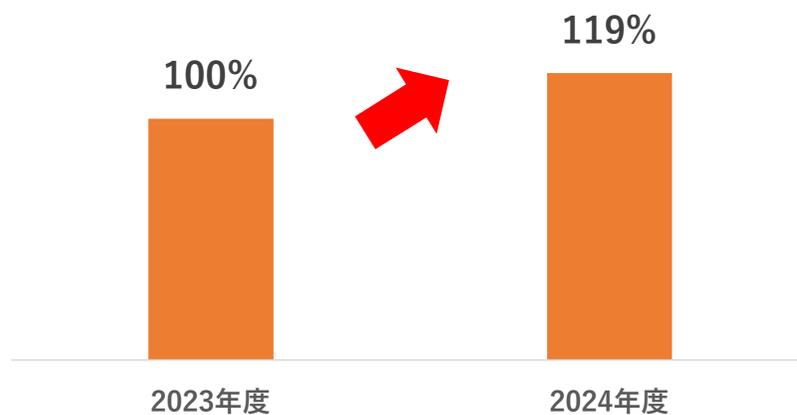
3年生の参加のべ総数



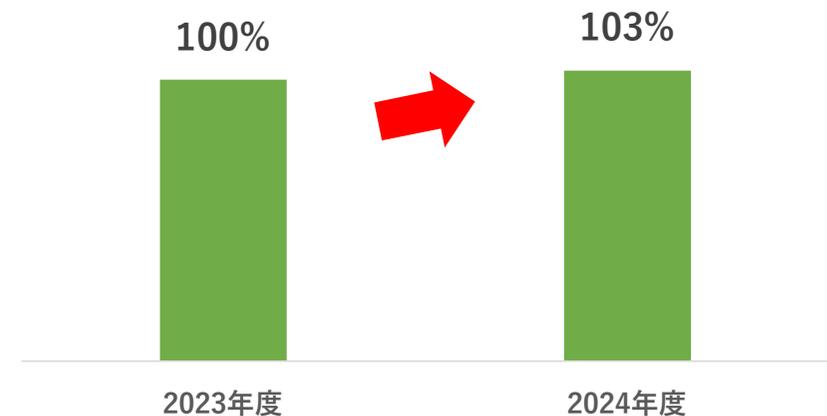
- ・ 全国3年生数 増↑ (91万人→92万人)
- ・ 全国参加割合 減↓ (49.1%→38.0%)
- ・ 平均参加校数 増↑ (1.7校→1.9校)

「専門学校」の「リアル形式」イベント；参加のべ総数昨対比（推計）

1・2年生の参加のべ総数



3年生の参加のべ総数

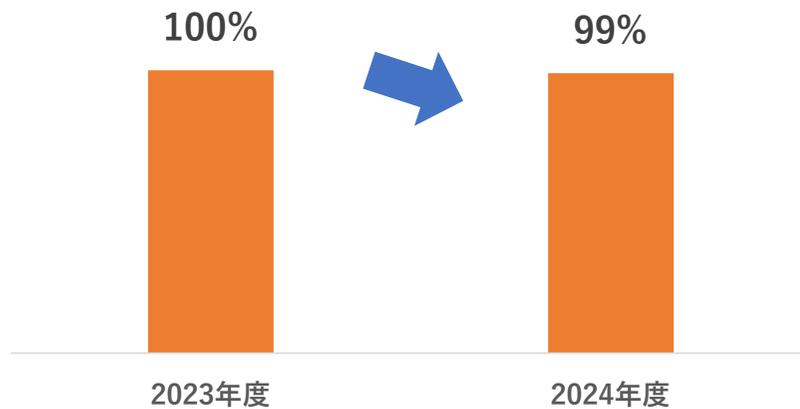


- ・ 全国1・2年数 減↓ (193万人→190万人)
- ・ 全国参加割合 増↑ (60.7%→65.8%)
- ・ 平均参加校数 増↑ (2.2校→2.4校)

- ・ 全国3年生数 増↑ (91万人→92万人)
- ・ 全国参加割合 増↑ (95.7%→97.7%)
- ・ 平均参加校数 同→ (3.3校→3.3校)

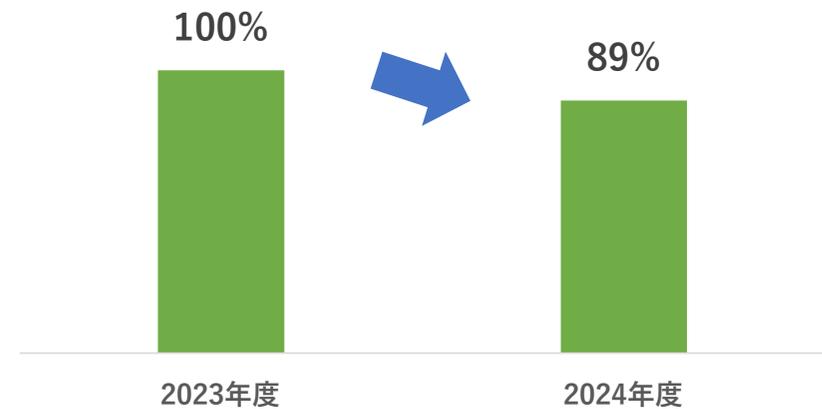
「専門学校」の「オンライン形式」イベント；参加のべ総数昨対比（推計）

1・2年生の参加のべ総数



- ・ 全国1・2年数 減↓ (193万人→190万人)
- ・ 全国参加割合 減↓ (21.5%→18.0%)
- ・ 平均参加校数 増↑ (1.4校→1.7校)

3年生の参加のべ総数

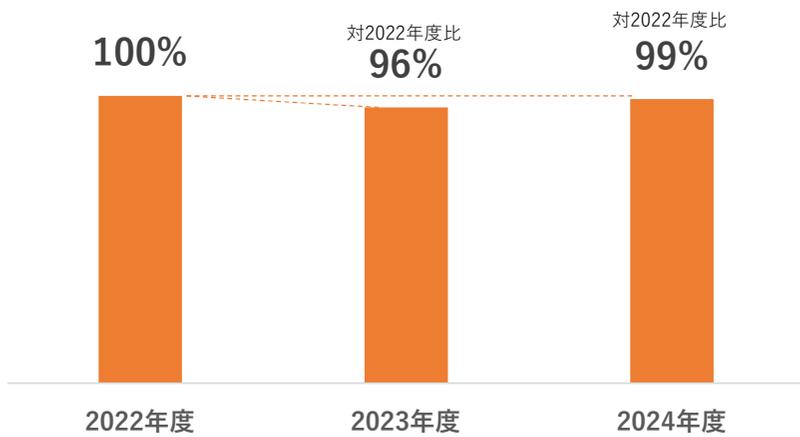


- ・ 全国3年生数 増↑ (91万人→92万人)
- ・ 全国参加割合 減↓ (38.3%→32.1%)
- ・ 平均参加校数 増↑ (1.9校→2.0校)

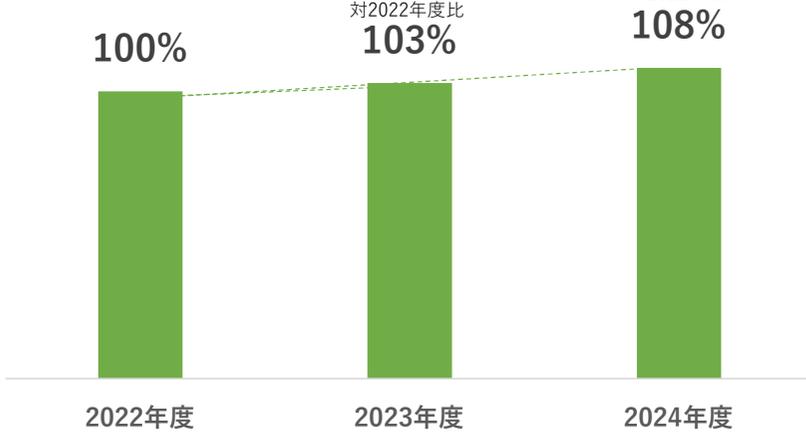
イベント参加のべ総数（推計）

参加のべ総数 **2022年度対比**（推計） ※大学／短大／専門、リアル／オンライン問わず

1・2年生の参加のべ総数



3年生の参加のべ総数

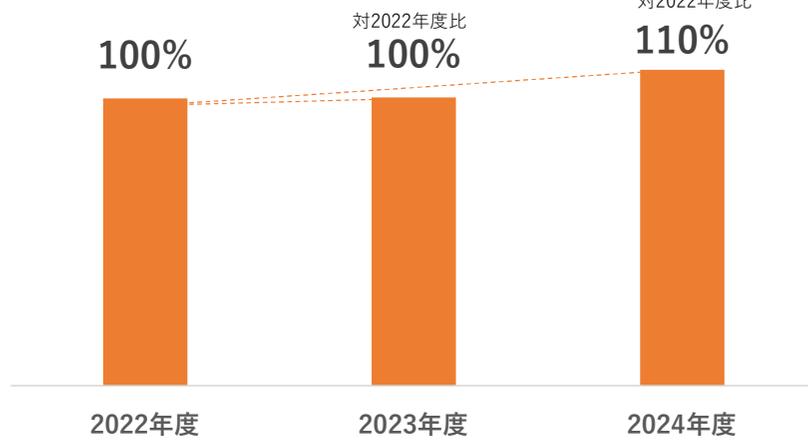


| | 対2022年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|----------|---------|---------|---------|---------|
| ・全国1・2年数 | 増↑減↓ | (192万人) | (193万人) | (190万人) |
| ・全国参加割合 | 増↑増↑ | (65.4%) | (68.0%) | (73.2%) |
| ・平均参加校数 | 減↓減↓ | (3.5校) | (3.2校) | (3.1校) |

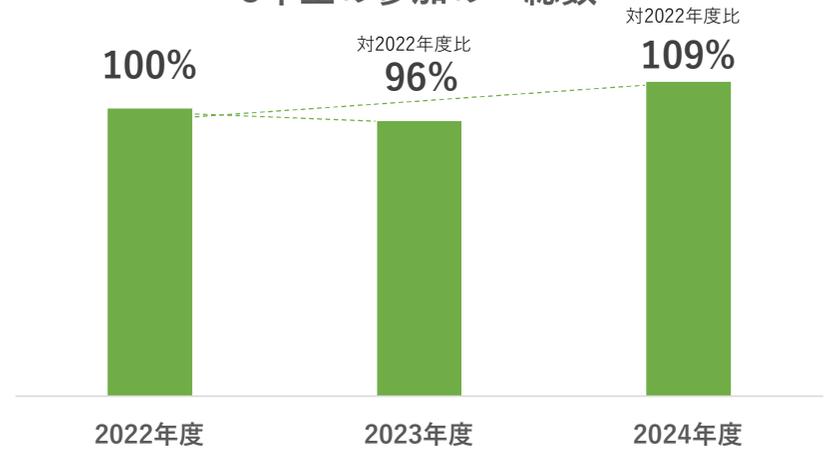
| | 対2022年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| ・全国3年生数 | 減↓増↑ | (95万人) | (91万人) | (92万人) |
| ・全国参加割合 | 増↑増↑ | (86.3%) | (89.8%) | (91.1%) |
| ・平均参加校数 | 増↑増↑ | (4.0校) | (4.1校) | (4.2校) |

「リアル形式」参加のべ総数 2022年度対比（推計） ※大学／短大／専門問わず

1・2年生の参加のべ総数



3年生の参加のべ総数

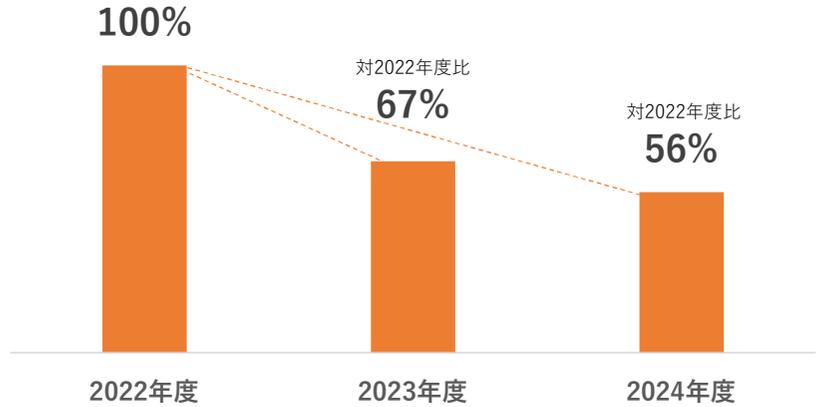


| | 対2022年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|----------|---------|---------|---------|---------|
| ・全国1・2年数 | 増↑減↓ | (192万人) | (193万人) | (190万人) |
| ・全国参加割合 | 増↑増↑ | (60.5%) | (66.2%) | (71.4%) |
| ・平均参加校数 | 同→同→ | (2.5校) | (2.5校) | (2.5校) |

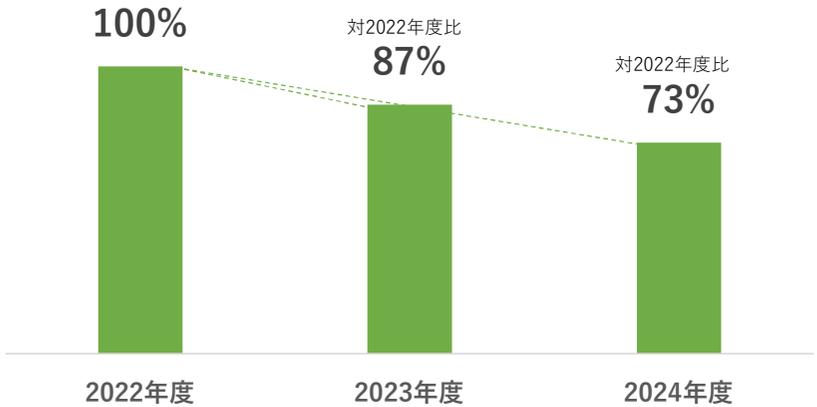
| | 対2022年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| ・全国3年生数 | 減↓増↑ | (95万人) | (91万人) | (92万人) |
| ・全国参加割合 | 増↑増↑ | (81.7%) | (88.4%) | (91.0%) |
| ・平均参加校数 | 増↑増↑ | (2.8校) | (3.1校) | (3.4校) |

「オンライン形式」参加のべ総数 **2022年度対比**（推計） ※大学／短大／専門問わず

1・2年生の参加のべ総数



3年生の参加のべ総数



| | 対2022年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|----------|---------|---------|---------|---------|
| ・全国1・2年数 | 増↑減↓ | (192万人) | (193万人) | (190万人) |
| ・全国参加割合 | 減↓減↓ | (36.4%) | (28.2%) | (23.6%) |
| ・平均参加校数 | 減↓同→ | (2.2校) | (1.9校) | (1.9校) |

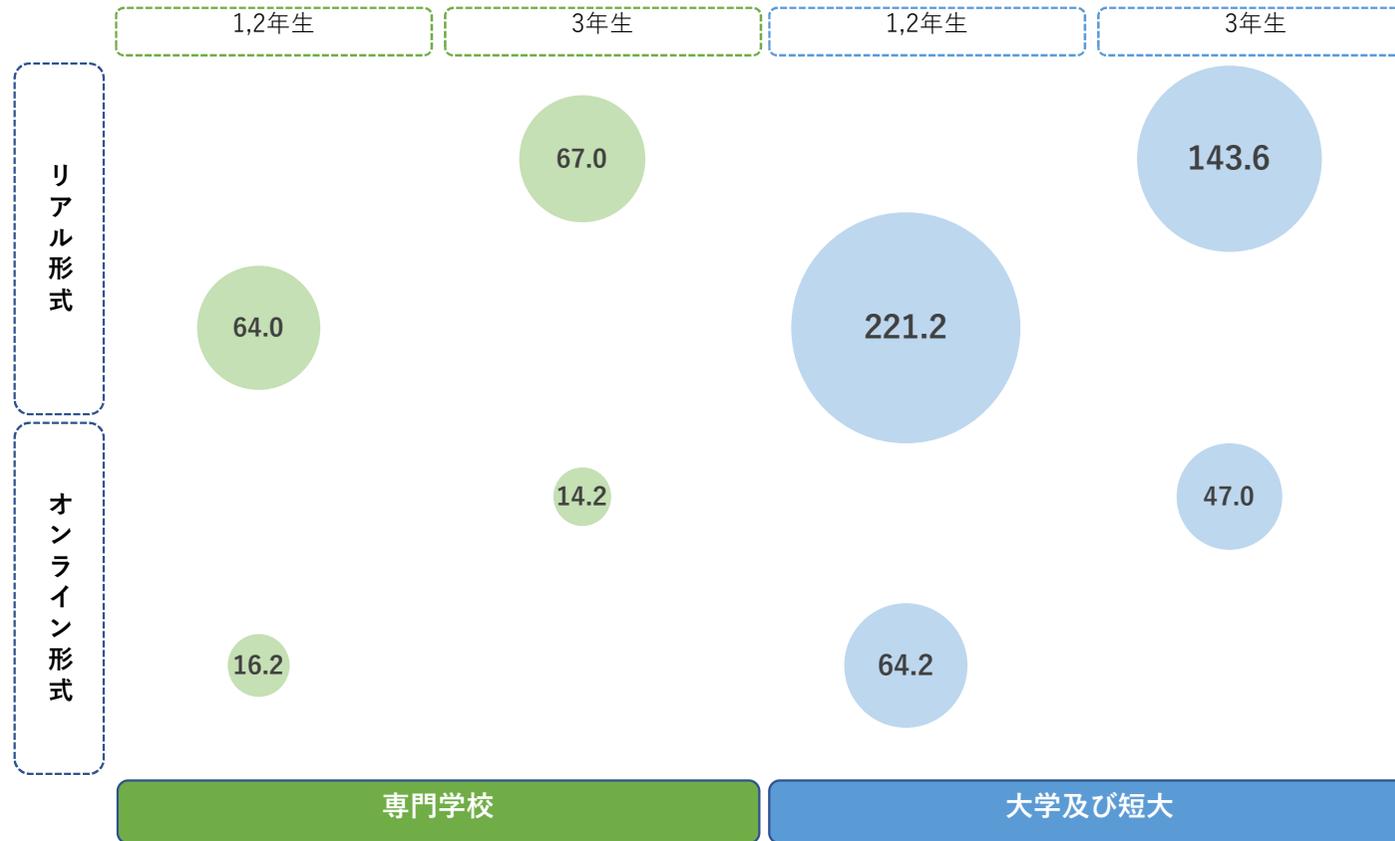
| | 対2022年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| ・全国3年生数 | 減↓増↑ | (95万人) | (91万人) | (92万人) |
| ・全国参加割合 | 減↓減↓ | (52.9%) | (46.5%) | (37.2%) |
| ・平均参加校数 | 同→増↑ | (2.1校) | (2.1校) | (2.2校) |

イベント参加のべ総数（推計）のバブルチャート

バブルの面積 = イベント参加のべ総数の大きさ
 チャートは2024年9月時点の推計

【参考】各市場の全国イベント参加のべ総数（推計）

（単位：万件）



※大学、短大、専門学校の進学先構成比率は2023年度以降同程度と仮定している。



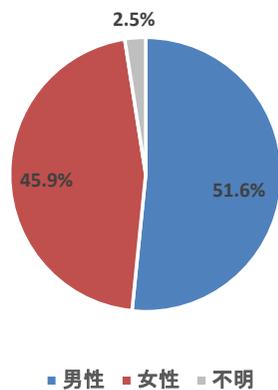
II.調査概要

2024年9月1日～9月7日実施の調査より

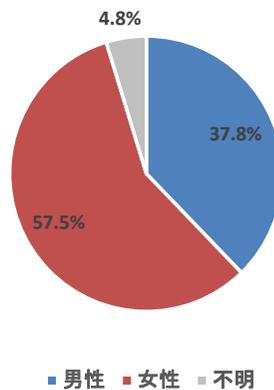
調査概要

- 調査名 : オープンキャンパスに関する実態調査
- 調査主体 : 株式会社マイナビ
- 調査方法 : スマートフォンリサーチ
- 調査回収期間 : 2024年9月1日～2024年9月7日
- 調査対象者 : マイナビ進学会員（高校3年生）
- 有効回答者数 : 803名 来場型のオープンキャンパス・学校見学などのイベントの参加校（高校在学時に参加）において
 - ・・・ 現時点で出願すると決めた学校がある、大学・短大進学志望の高校3年生 403名
 - ・・・ 現時点で出願しないと決めた学校がある、大学・短大進学志望の高校3年生 400名
- 回答者男女比 :

出願すると決めた学校がある(N=403)



出願しないと決めた学校がある(N=400)



本調査では、以下の流れで設問を設置している。

【前半】（P.16-48）

狙い：「出願すると決めた学校」と「出願しないと決めた学校」の差は何かを明らかにすること

- ①「高校在学時に来場型のオープンキャンパス・学校見学会などのイベントに参加したか」
- ②「イベントに参加した学校の中で、現時点で出願すると決めた学校はあるか」
- ③「イベントに参加した学校の中で、現時点で出願しないと決めた学校はあるか」

→②or③で「ある」と回答した人には、その学校名を記入してもらい、「〇〇（学校名）についてお聞きします」と調査時の回答画面上部に表示し、特定の「出願すると決めた学校」もしくは「出願しないと決めた学校」についての回答を得た。その上でそれぞれの回答の差に注目した。（「差がある」の目安は10pt以上とした）

【後半】（P.49-53）

狙い：イベント全般に関する高校生の考えを明らかにすること

調査時の回答画面上部に「オープンキャンパス・学校見学会などのイベント全般についてお聞きします。」と回答画面上部に表示し、イベント全般に関する回答を得た。



Ⅲ.出願する／出願しないと 決めたイベント参加校について オープンキャンパス参加の実態

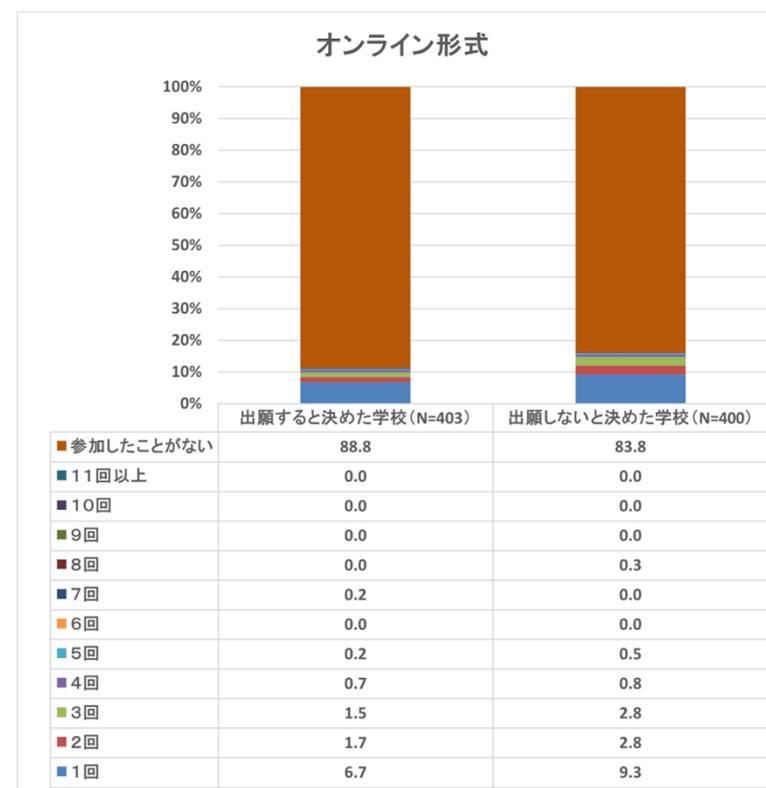
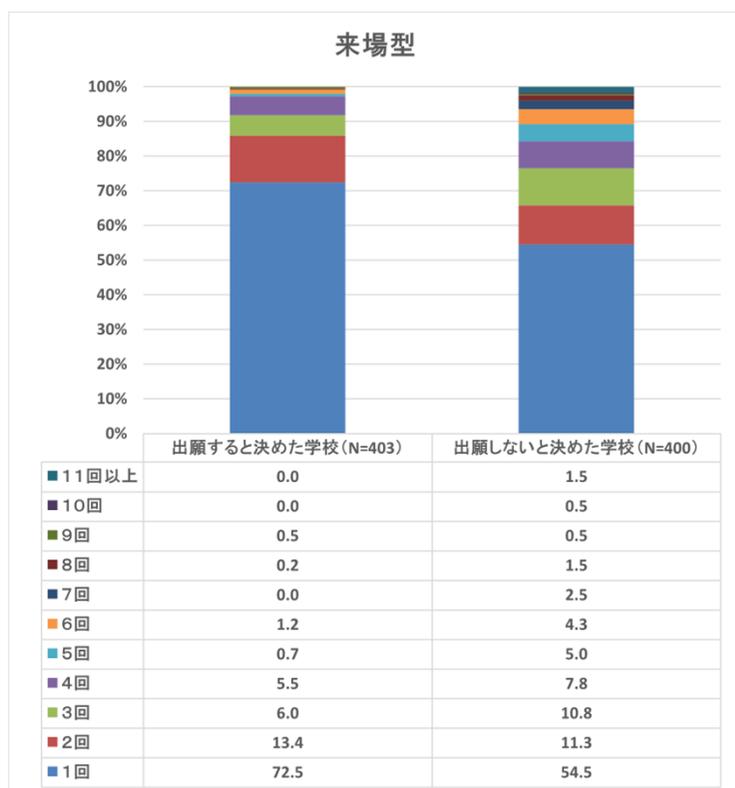
2024年9月1日～9月7日実施の調査より

出願への差は「満足度<理解度<イメージできるか」。

- 事前申込をして (P.21)、参加前に学校のことについて調べている (P.29) 高校3年生が多い。事前に知りたかったことを解消できている人がほとんどではあるが、「**全て解消できたか**」については、出願する／出願しないと決めた学校に差が出ていた。
- 志望度・満足度の上がったポイントとしては「**説明のわかりやすさ**」が挙げられたが (P.35,36,38-44)、出願する／出願しないと決めた学校に差が出たのは「**親しみを持てるか**」であった。(P.42,44) いかに参加者に寄り添えるか、それが高校生側に伝わっているかが鍵になるか。
- **イベントで知れなかった内容**としては、**実際の学生生活の様子**という声が複数あった。(P.31) いかに入学後の自分をイメージできるか、というポイントの重要性が窺える。
- 「**全体説明／ガイダンス**」「**学部説明**」は「参加のきっかけ／実際に参加した／志望度が上がった」プログラムのいずれでも、他の項目と比べて回答割合が高い。(P.28) **高校生は「学べる内容」を重視する***ため、自分が学びたい内容と学校で学べる内容にギャップがないか、入念にチェックしている様子。
- 出願する／出願しないと決めた学校において、満足度を聞く項目で出た差は大きくても10pt程度 (p.32-46) だったが、参加後の**理解度**については20～30pt (P.47)、各項目における自分を**イメージできるか**については30～40pt (P.48) であった。出願への差は、イベントを通して高校生にいかに入学後の自分をイメージしてもらえるかに出てくると言える。

Q.オープンキャンパス・学校見学会などのイベントの参加回数をそれぞれお知らせください。

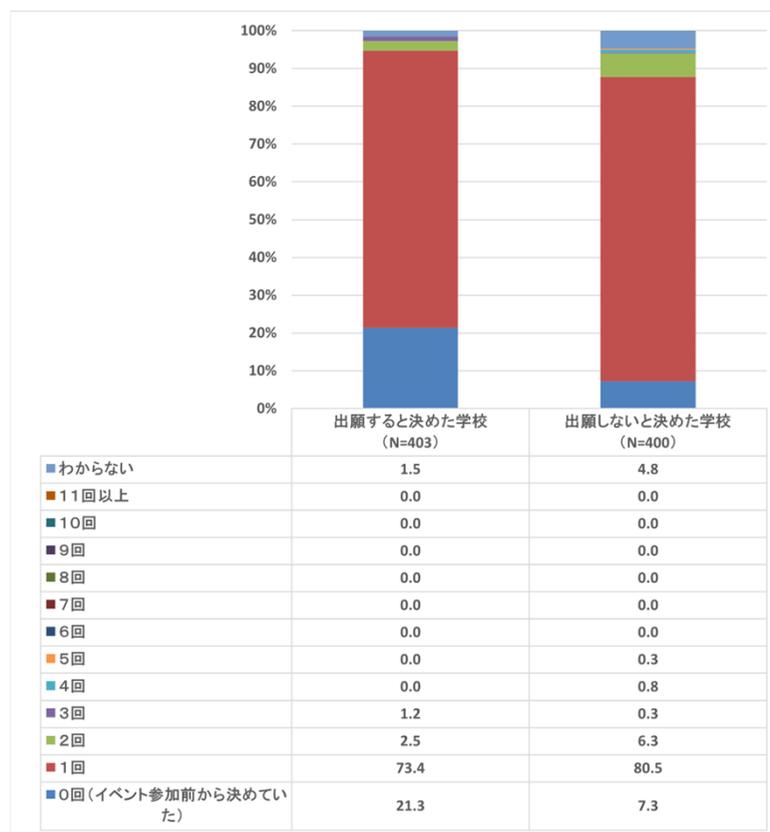
イベントの参加回数としてはどちらも「1回」が多く、
 出願しない学校の方が複数回参加している割合がやや高い。
 オンライン形式にはどちらも「参加したことがない」という回答が多い。



Q.初めて参加した時から数えて、何回目で出願する／出願しないと決まりましたか。

出願すると決めた学校の方が「0回（イベント参加前から決めていた）」という割合が高く、イベント以外での志望度醸成も重要であると言える。

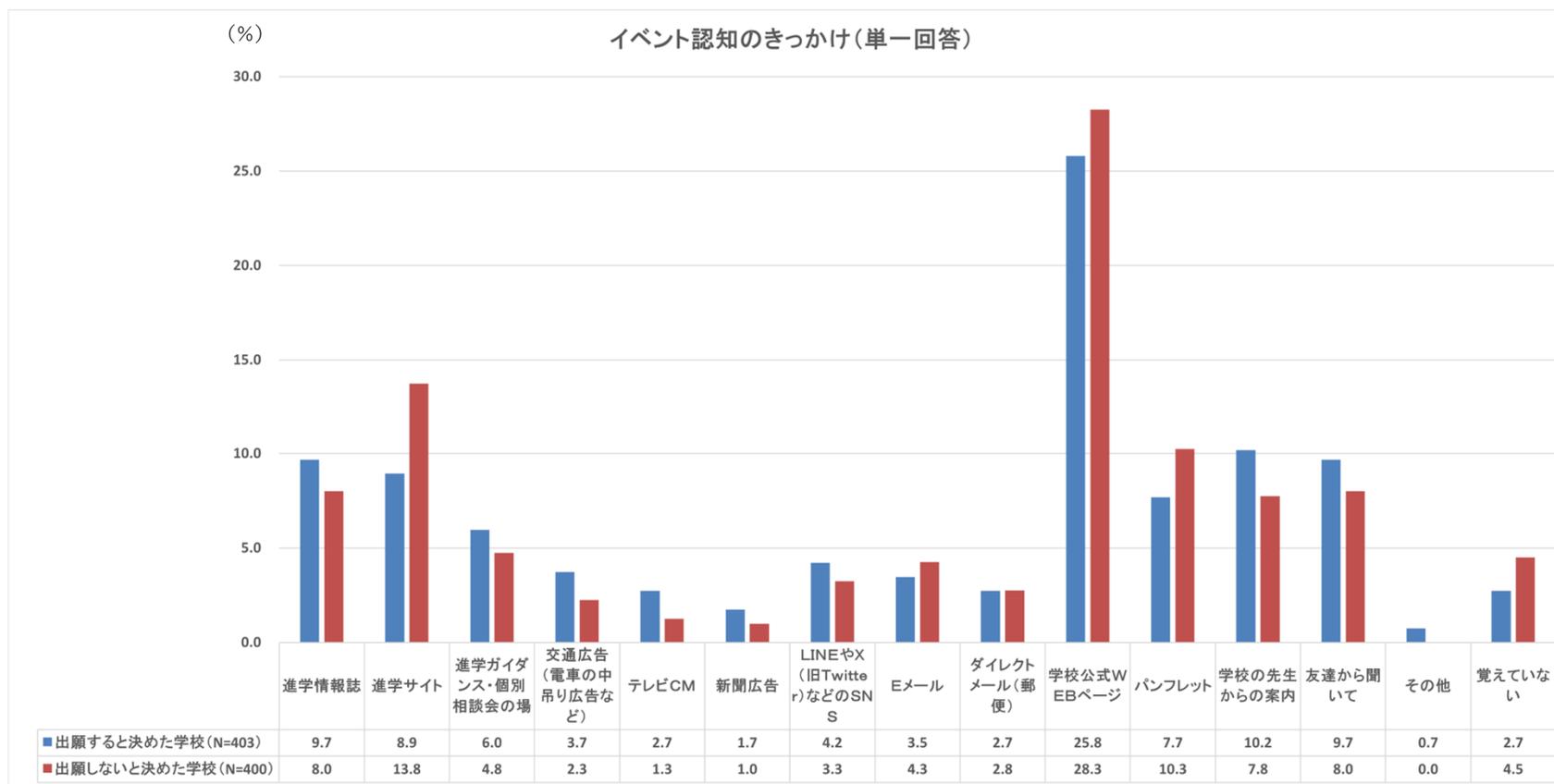
どちらも「1回」の回答割合が最多。



Q.来場型で参加した直近のイベントについて、最初に知った情報媒体をお知らせください。

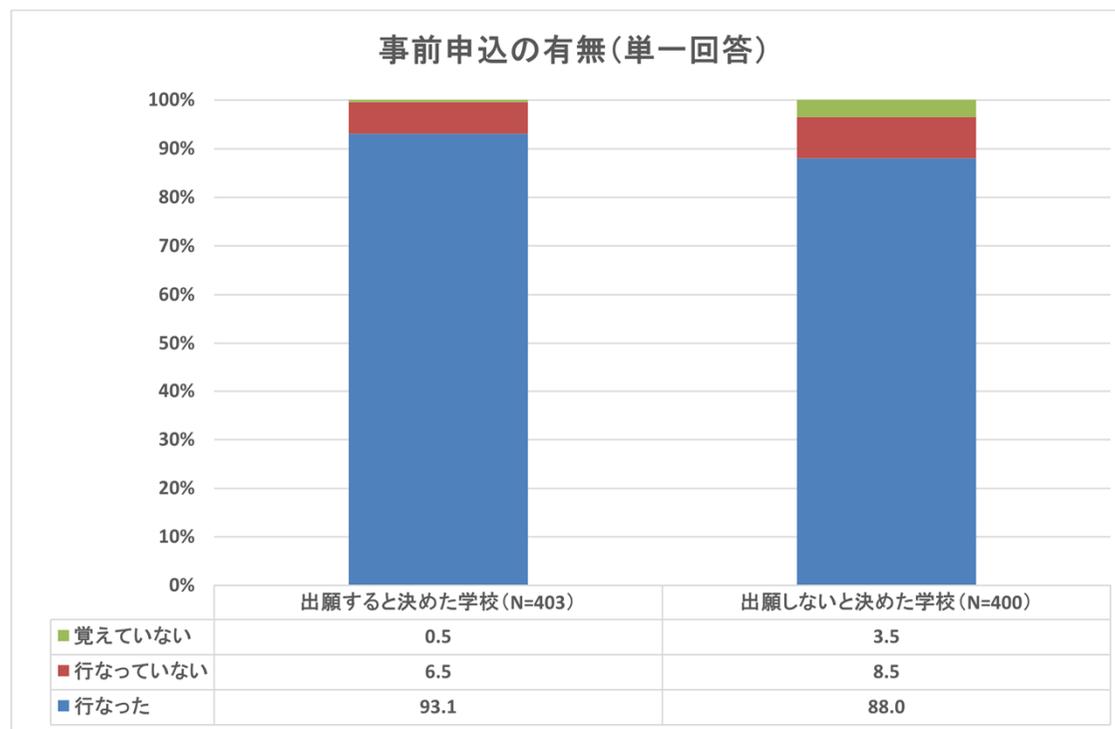
全体として「**学校公式WEBページ**」の回答割合が高い。

出願すると決めた学校／出願しないと決めた学校における差はほぼ出なかった。



Q.来場型で参加した直近のイベントに参加する際、事前申し込みは行ないましたか。

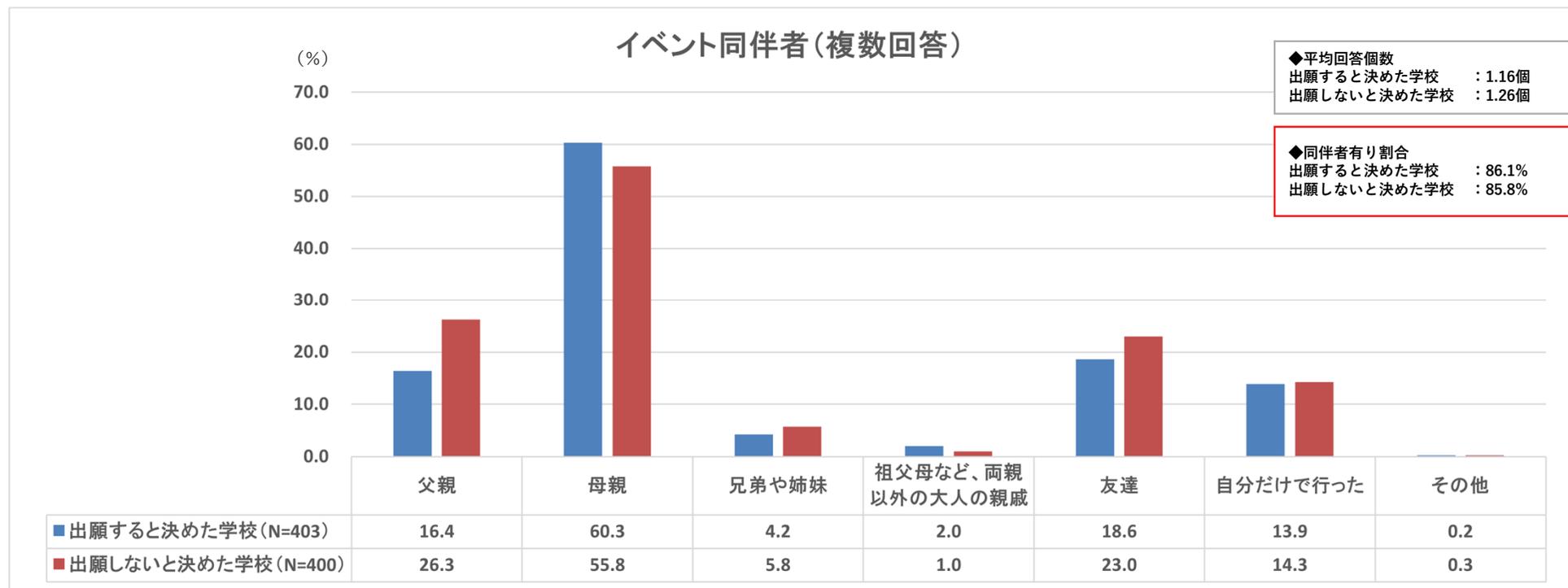
事前の申し込みは、ほとんど行なっているのが実情。



Q.オープンキャンパス・学校見学会などのイベントには誰と一緒に行きましたか。

半数以上が「母親」と一緒にイベント参加をしているという結果だった。

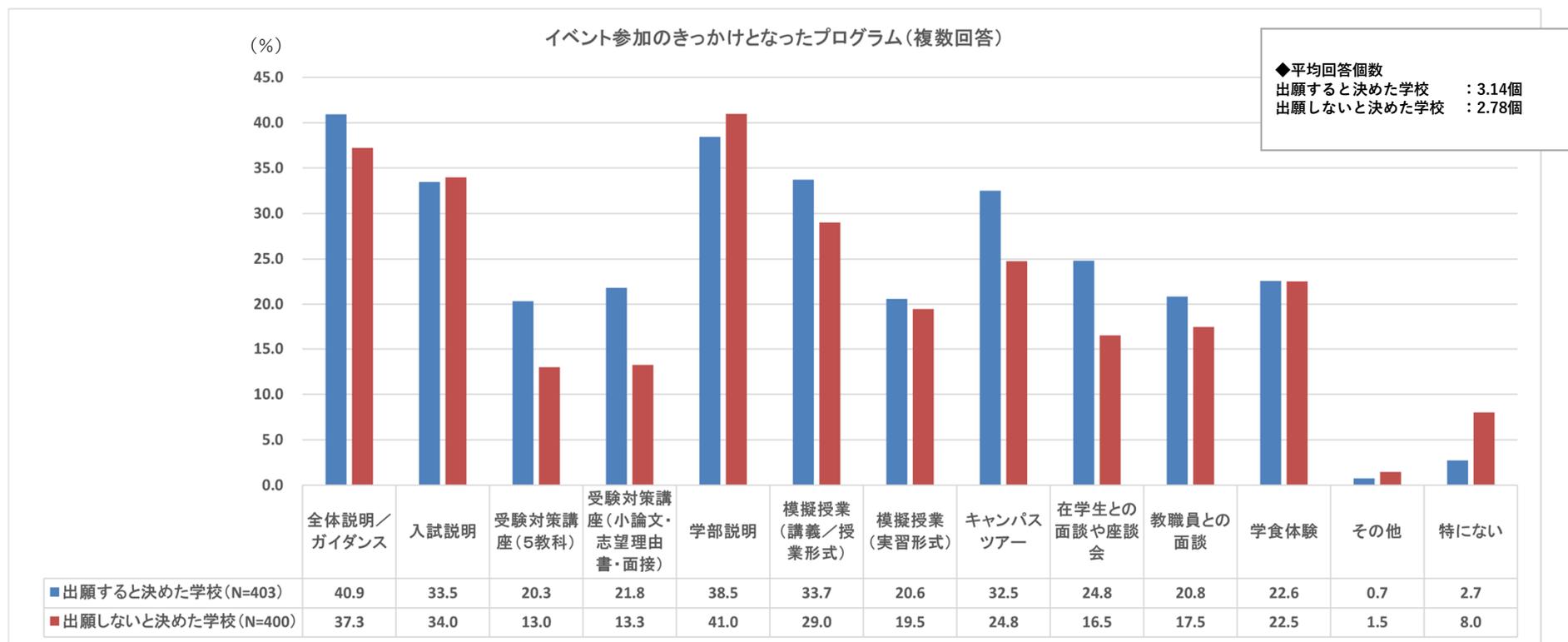
全体から「自分だけで」を除いた同伴者有り割合は、**約85%**。



Q.オープンキャンパス・学校見学会などのイベントに参加しようと思うきっかけとなったプログラムをお知らせください。

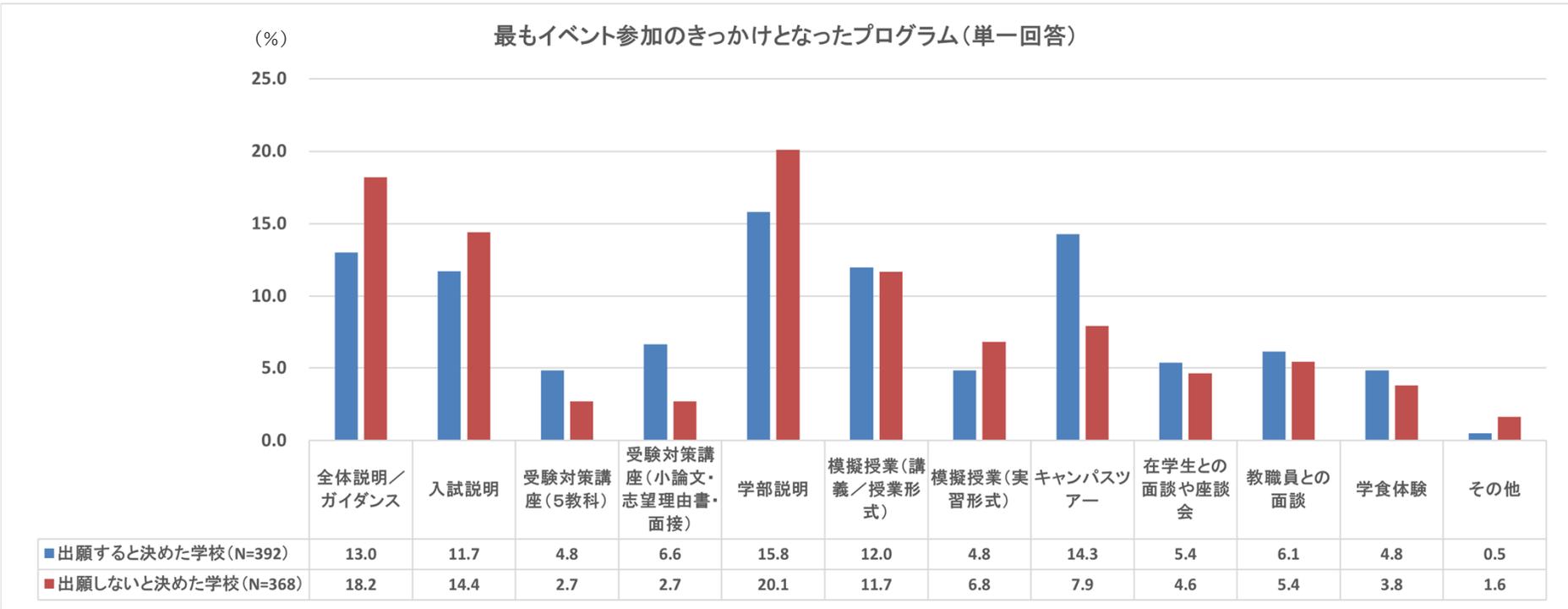
全体として「全体説明」「学部説明」「入試説明」の回答割合が多い。

出願する／出願しないと決めた学校における差はほぼ出なかった。



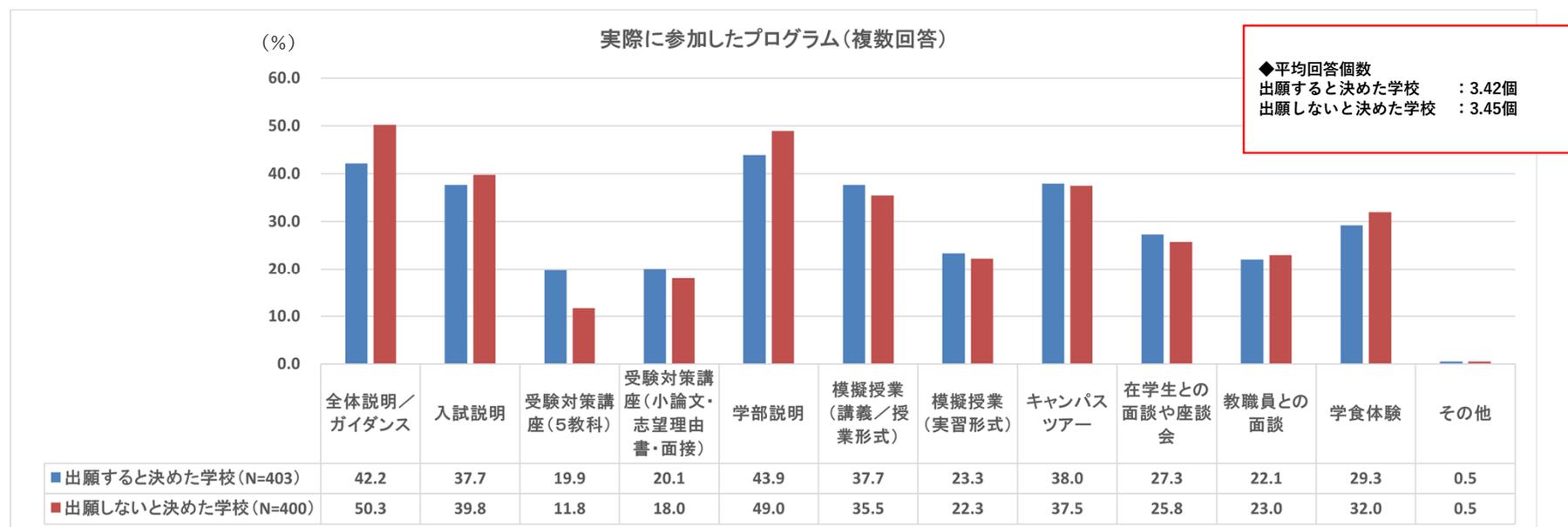
Q.最もオープンキャンパス・学校見学会などのイベントに参加しようと思うきっかけとなったプログラムをお知らせください。

前問と大きくは傾向変わらず、全体として「全体説明」「学部説明」「入試説明」の回答割合が多い。
出願する／出願しないと決めた学校における差はほぼ出なかった。



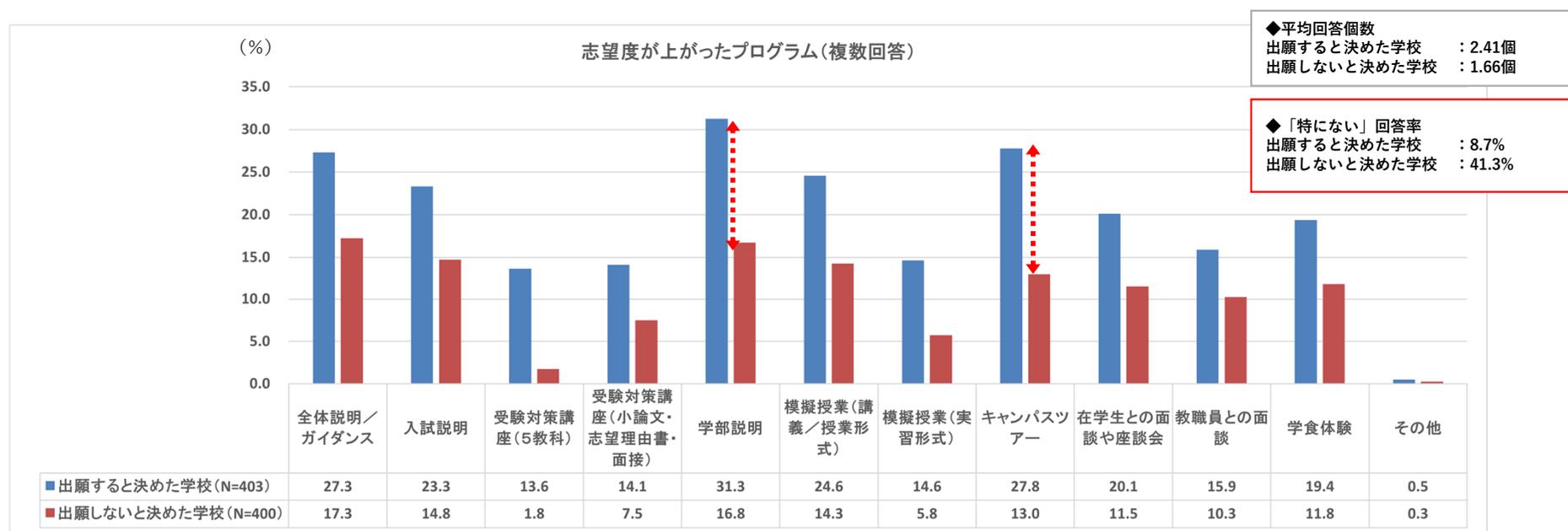
Q.オープンキャンパス・学校見学会などのイベントに実際に参加したプログラムをお知らせください。

全体として「全体説明」「入試説明」「学部説明」「模擬授業（講義）」「キャンパスツアー」の回答割合が高い。
 出願する／出願しないと決めた学校によって回答傾向に大きな差は見られない。
 平均参加プログラム数はおおよそ3,4個。



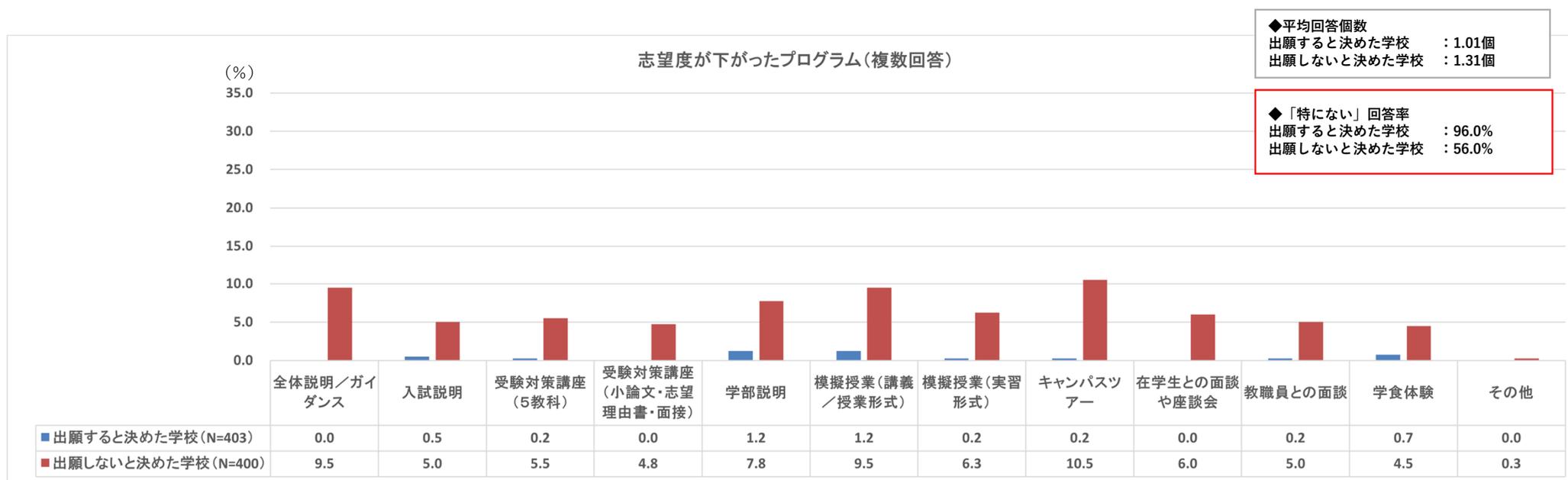
Q.参加したプログラムについて、学校の志望度が上がったプログラムをお知らせください。

前問の通り参加率では大きな差は出ていない中で、「学部説明」と「キャンパスツアー」の回答割合において、約15ptの差が出た。「特にない」の回答率には約30ptの差が出ており、各プログラムの内容によって出願有無に影響が出ると言える。

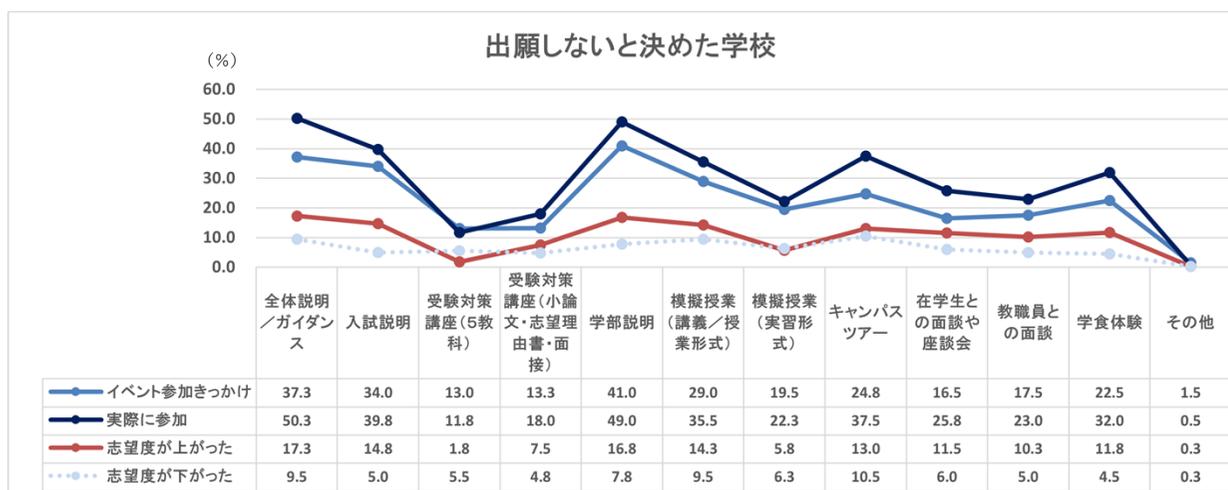
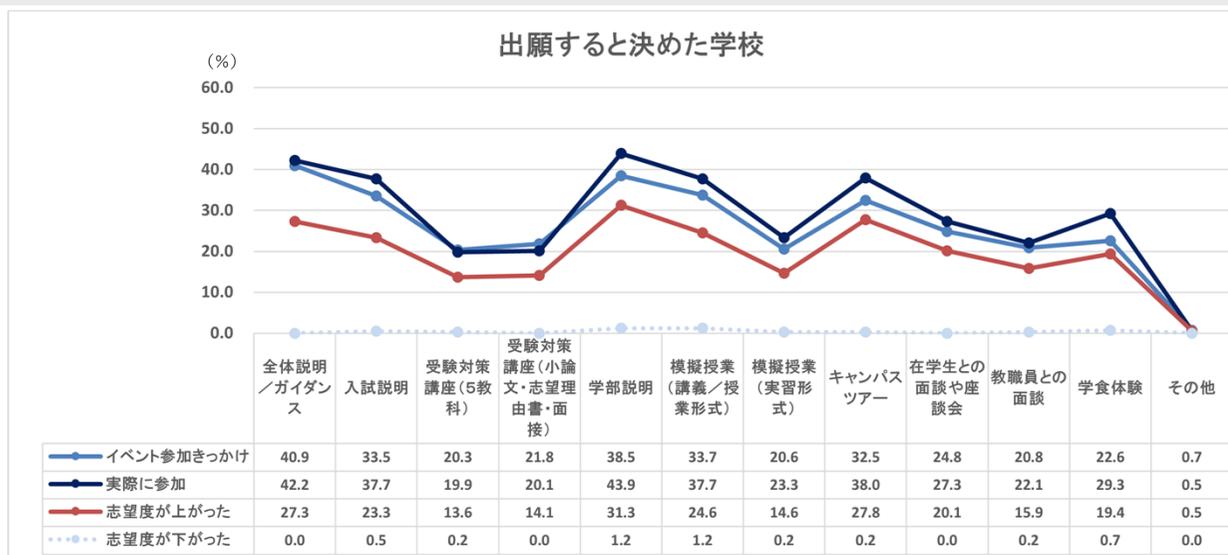


Q. 参加したプログラムについて、学校の志望度が下がったプログラムをお知らせください。

「特にない」の回答は出願すると決めた学校で96%、出願しないと決めた学校で56%。
出願すると決めた学校においては、志望度の下がったプログラムはほぼないという結果。



【比較】 イベント参加きっかけ／実際に参加／志望度が上がった／志望度が下がった プログラム

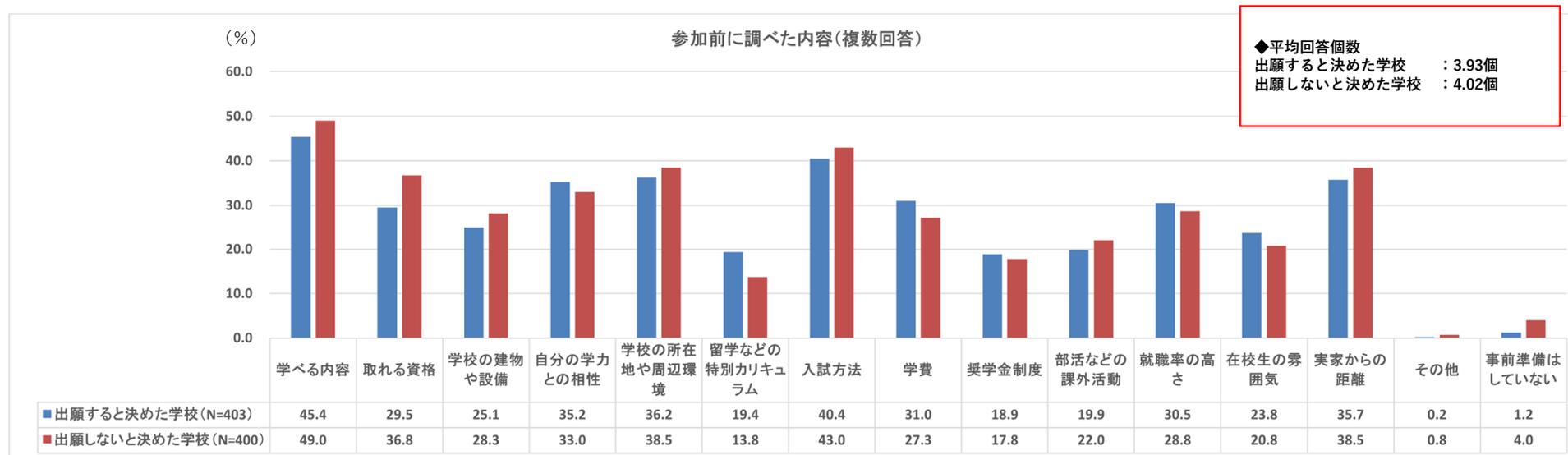


Q.オープンキャンパス・学校見学会などのイベントの参加前に調べた内容をお知らせください。

全体として「学べる内容」の回答割合が最も高い。

出願する／出願しないと決めた学校における差はほぼ出なかった。

平均4項目ほどは事前に調べてから参加している結果だった。

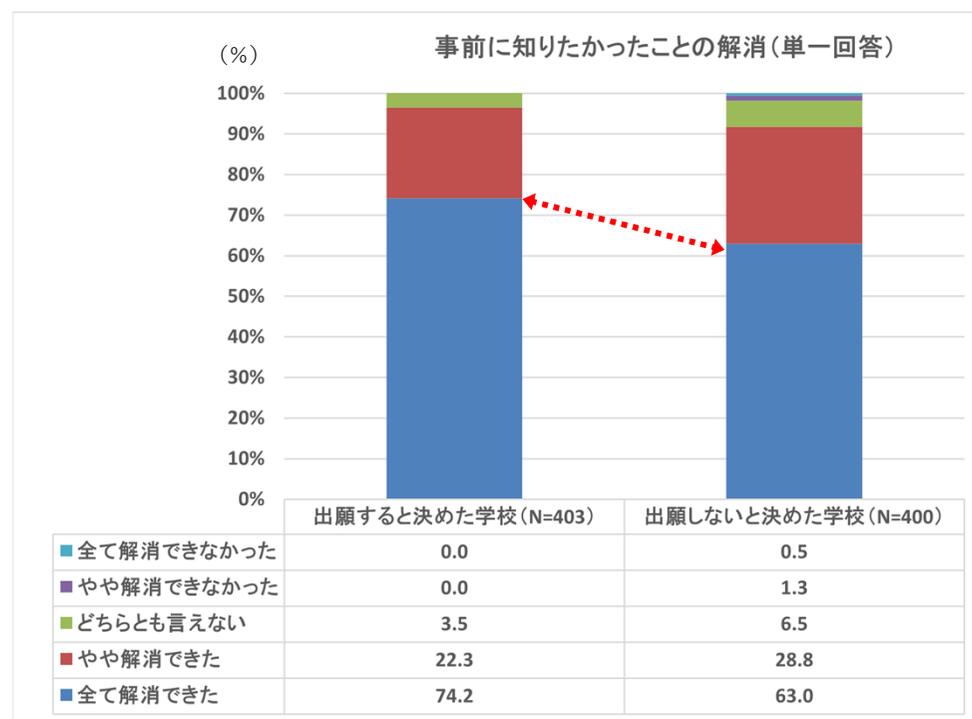


Q.イベントに参加することで、事前に知りたかったことを解消できましたか。

9割以上の高校生は、事前に知りたかったことを解消できている。

「**全て解消できた**」かどうかについては出願する/しないと決めた学校とで11.2ptの差が出ている。

余すことなく疑問を解消できるか、の小さな差が重要と考えられる。



Q.事前に知りたかったことのうち、イベントに参加しても知ることができなかった内容と理由を教えてください。(一部抜粋)

出願すると決めた学校

- 詳しい入試情報。学校生活や学部の説明がほとんどあまり入試に関する説明がなかったから。
- 大学の雰囲気だけはつかめたが、申し込みが遅かったため体験授業に参加できなかった。
- 在学生たちの普段の学校生活。夏休みだから学生さんがパラパラとしかいなかった。
- 説明を受けたけど自分がすぐに理解できず、帰宅後頂いた資料で解消できた。
- 時間や見れる内容が限られているので、学ぶ内容全てを理解する事は難しい。
- 模擬授業を受けたくて受けたが、先生の声がこもって、わかりづらかった。
- 先生方の専門や紹介。学園祭のような感じで先生方と話が出来なかった。
- 在学生の学生生活など生の声を聞くこと。時間がなくて聞けなかった。

出願しないと決めた学校

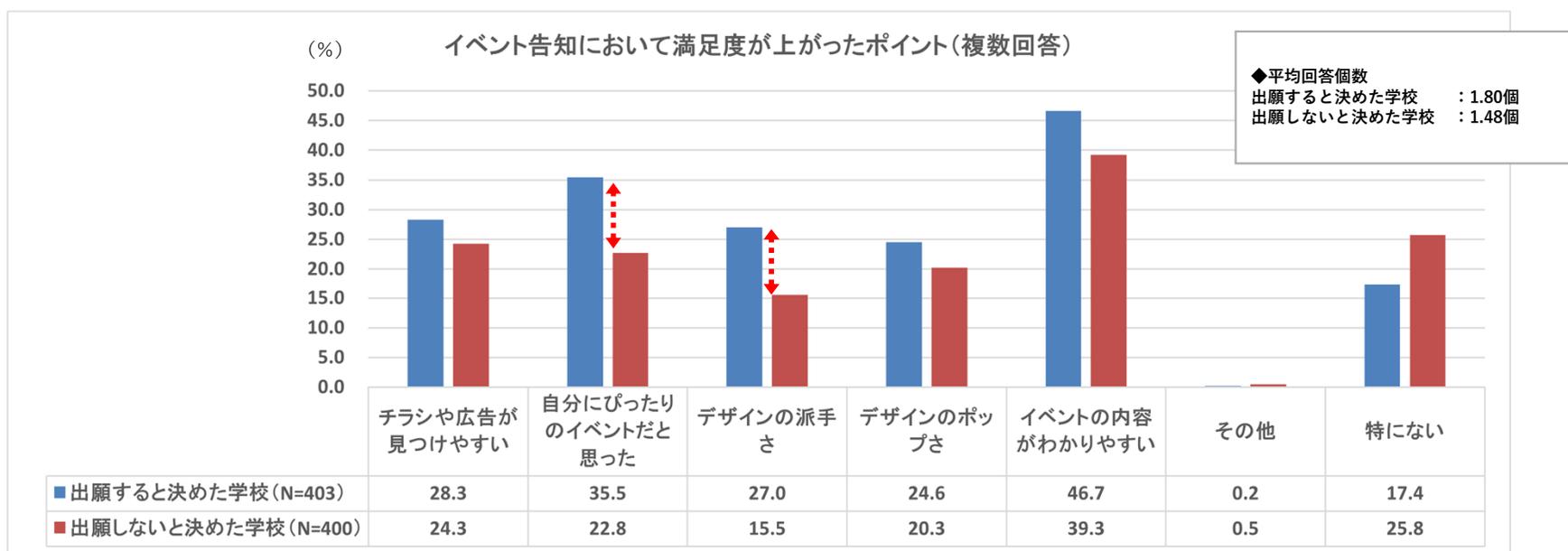
- 授業の雰囲気や、カリキュラムの内容など。後に別の大学のイベントに参加して、学部ごとの説明会で在学生の話聞いた時、こういった話を聞いたので、〇〇大学でも学部ごとの説明会に参加しておけば良かったと思った。
- 専門性の追求をもっとしたかったが、自分の調べ方も甘かったので、別の方面からの追求もあまり出来なかった。もっと深く調べていくべきだったと思う。
- 設備を知ることができなかった。実際学ぶキャンパスと違ったところのキャンパスでのオーキャンだったため。
- 授業内容について先生がノートを見ながら事務的に説明していた。聞けるような状況ではなかった。
- 自分の学力では無理だと思った。
- 細かい授業内容は知ることができた。学食や生徒同士の雰囲気は知ることができなかった。
- 勉強してみたいと思っているゼミ、入りたいと思っているサークルの発表などがなかった。

※前問で「やや解消できた」「どちらとも言えない」「やや解消できなかった」「全て解消できなかった」と回答した人へのみ聴取

Q. 参加したイベントについて、イベント告知 (チラシや広告) において満足度が上がったポイントがあれば全てお知らせください。

「イベントの内容がわかりやすい」の回答割合が最も高い。

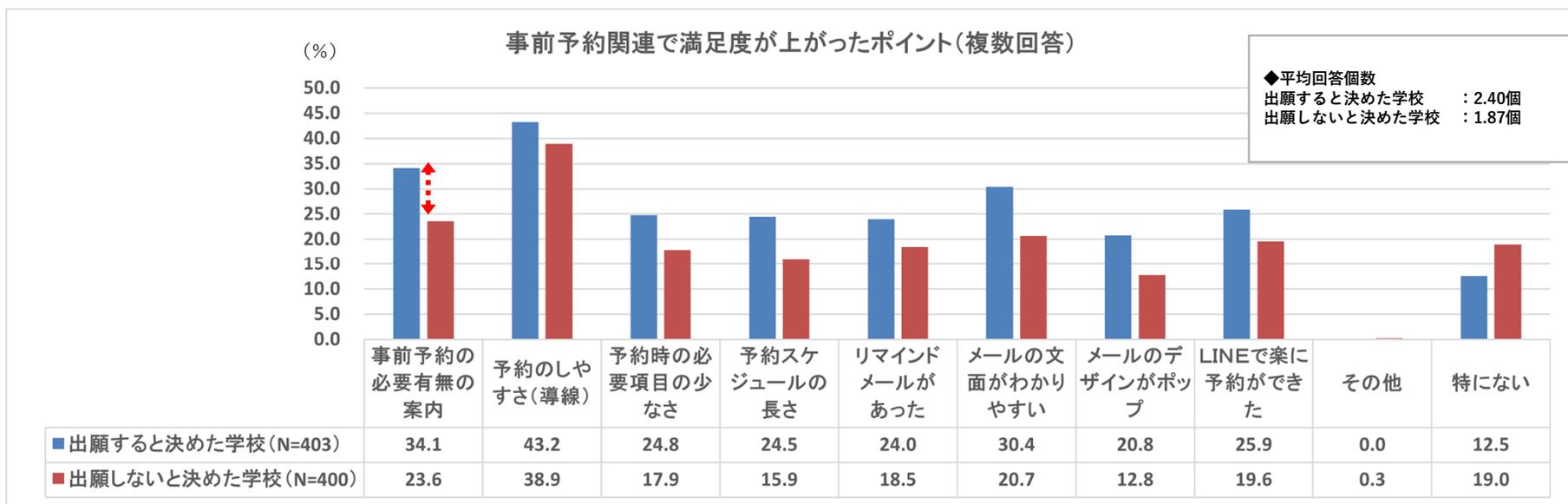
「自分にぴったりのイベントだと思った」「デザインの派手さ」において、10pt以上の差が出た。
イベント内容を高校生の属性ごとに出し分けるなどの工夫が鍵となりそうだ。



Q. 参加したイベントについて、事前予約関連で満足度が上がったポイントがあれば全てお知らせください。

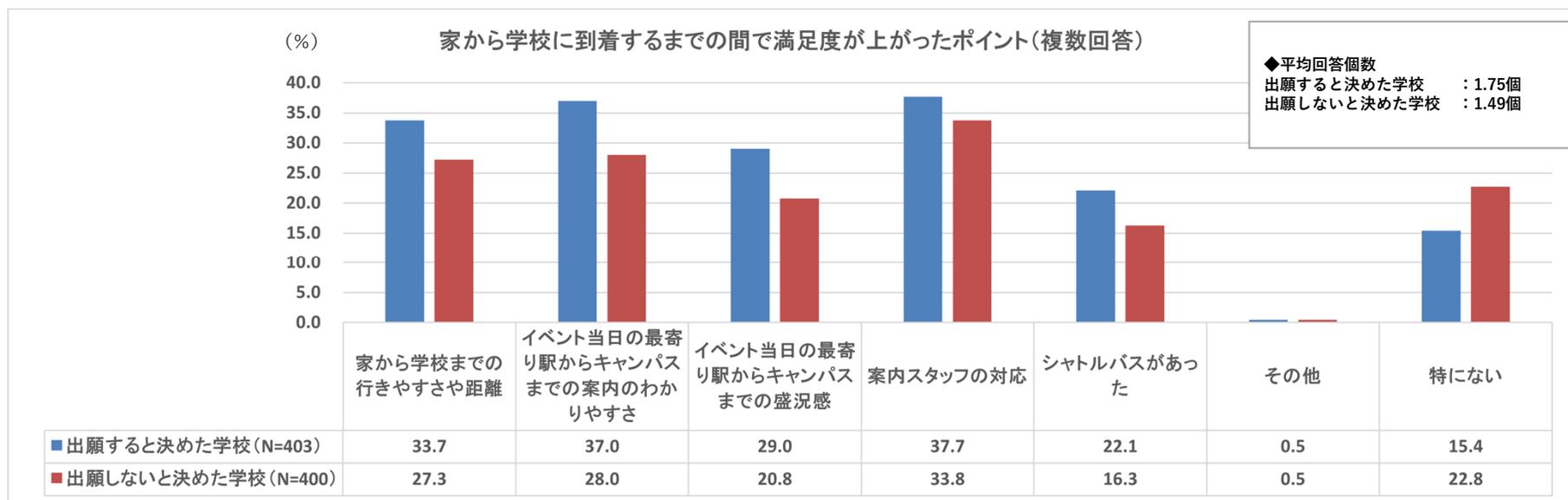
「予約のしやすさ（導線）」の回答割合が最も高い。

「事前予約の必要有無の案内」において、10pt以上の差が出た。



Q. 参加したイベントについて、家から学校に到着するまでの間で満足度が上がったポイントがあれば全てお知らせください。

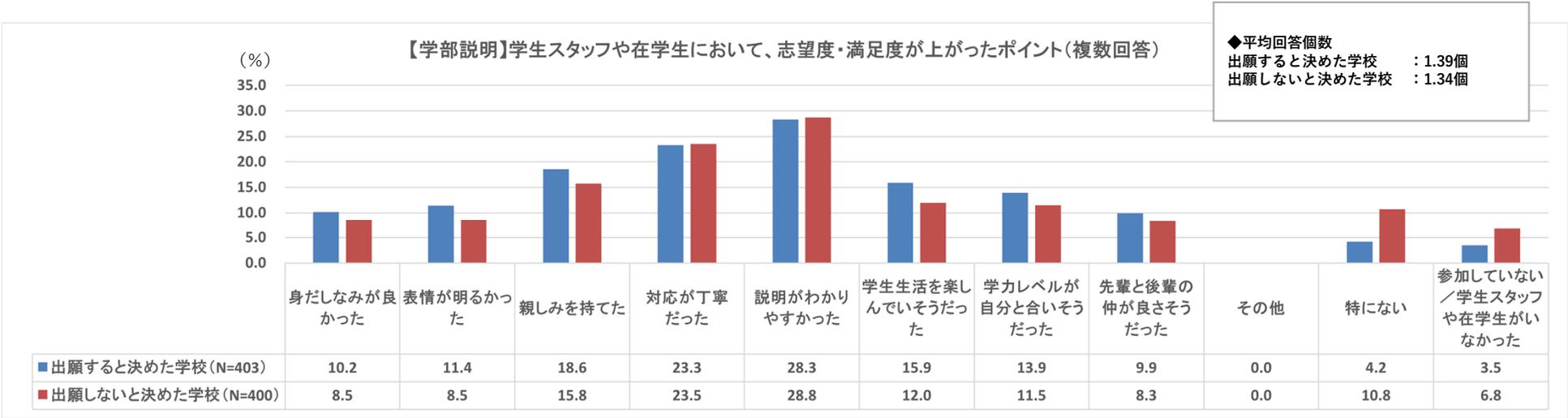
「案内スタッフの対応」の回答割合が最も高い。
出願する／出願しないと決めた学校の差は大きくは出なかった。



Q. 参加したイベントについて、学部説明の学生スタッフや在学生において、志望度・満足度が上がったポイントがあれば全てお知らせください。

「説明がわかりやすかった」の回答割合が最も高い。

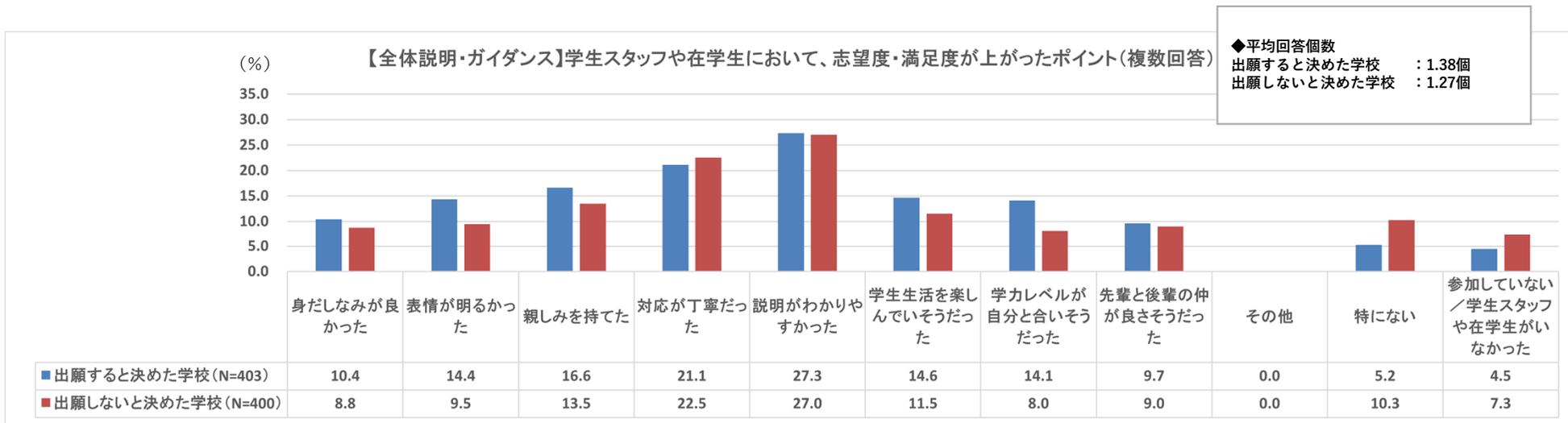
出願する／出願しないと決めた学校の差は大きくは出なかった。



Q. 参加したイベントについて、全体説明・ガイダンスの学生スタッフや在学生において、志望度・満足度が上がったポイントがあれば全てお知らせください。

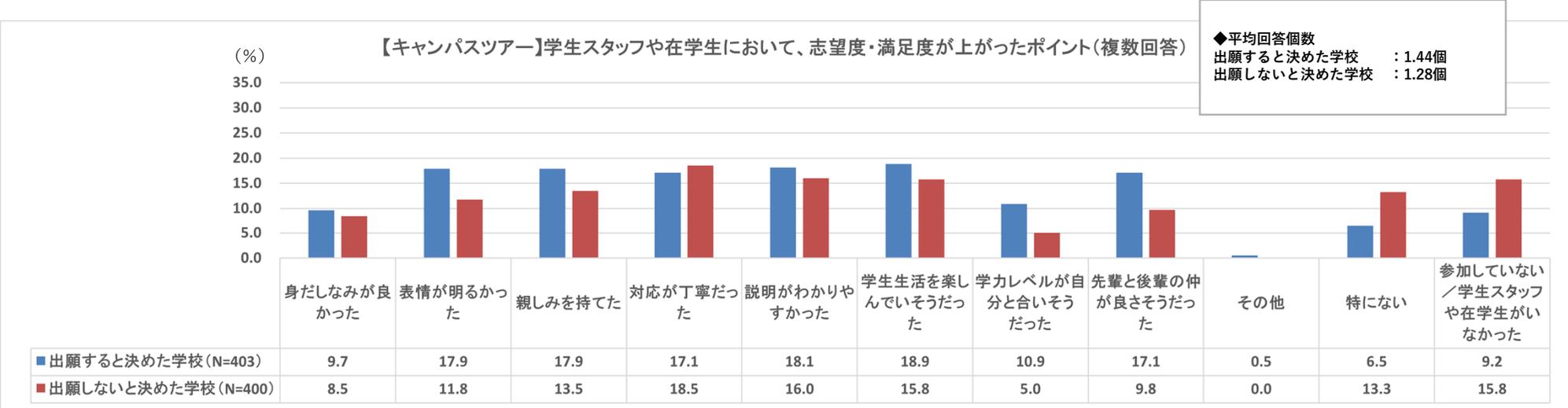
「説明がわかりやすかった」の回答割合が最も高い。

出願する／出願しないと決めた学校の差は大きくは出なかった。



Q. 参加したイベントについて、キャンパスツアーの学生スタッフや在学生において、志望度・満足度が上がったポイントがあれば全てお知らせください。

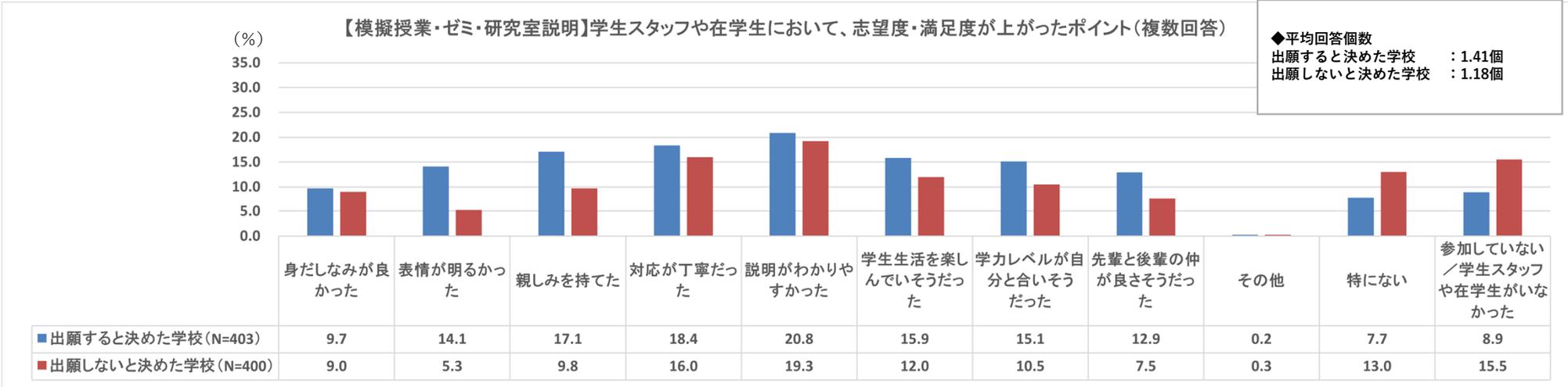
ほぼ横並びだが、出願すると決めた学校では「**学生生活を楽しんでいそうだった**」、
出願しないと決めた学校では「**対応が丁寧だった**」の回答割合が最も高い。



Q. 参加したイベントについて、模擬授業・ゼミ・研究室説明の学生スタッフや在学生において、志望度・満足度が上がったポイントがあれば全てお知らせください。

「説明がわかりやすかった」の回答割合が最も高い。

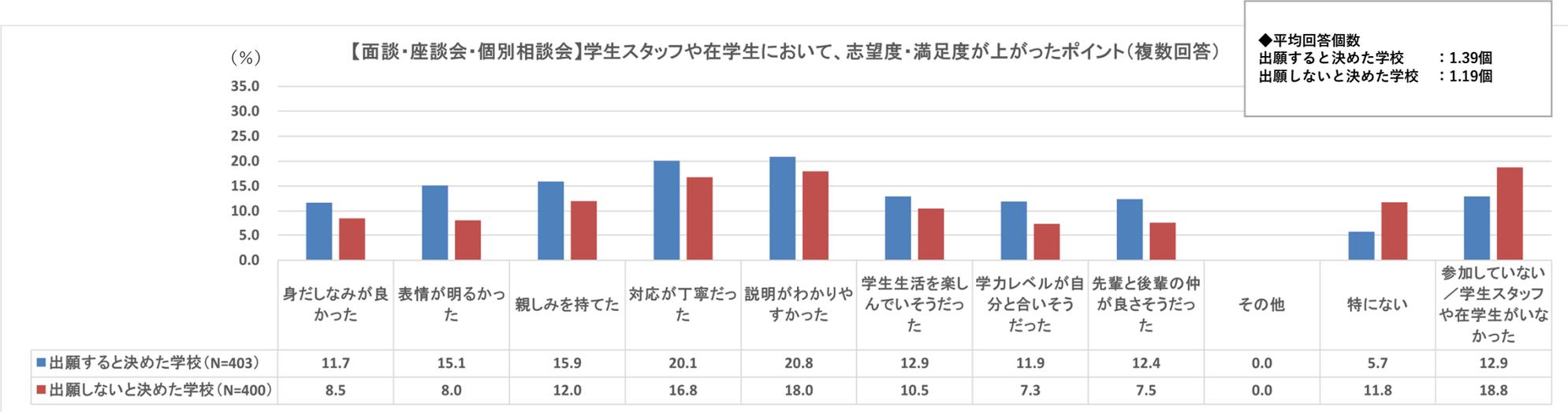
出願する／出願しないと決めた学校の差は大きくは出なかった。



Q. 参加したイベントについて、面談・座談会・個別相談会の学生スタッフや在学生において、志望度・満足度が上がったポイントがあれば全てお知らせください。

「説明がわかりやすかった」の回答割合が最も高い。

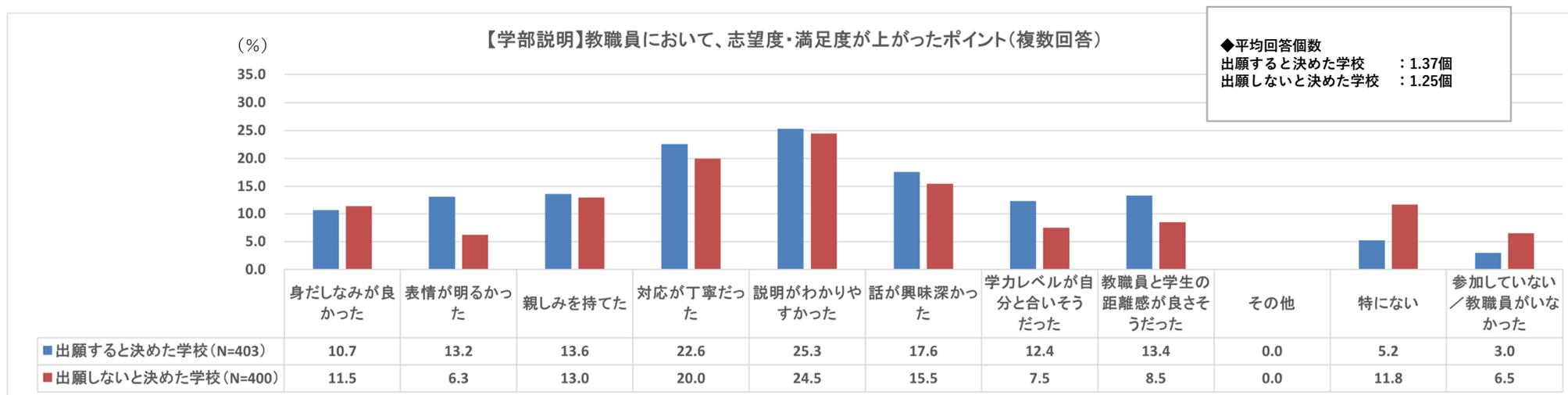
出願する／出願しないと決めた学校の差は大きくは出なかった。



Q. 参加したイベントについて、学部説明の教職員において、志望度・満足度が上がったポイントがあれば全てお知らせください。

「説明がわかりやすかった」の回答割合が最も高い。

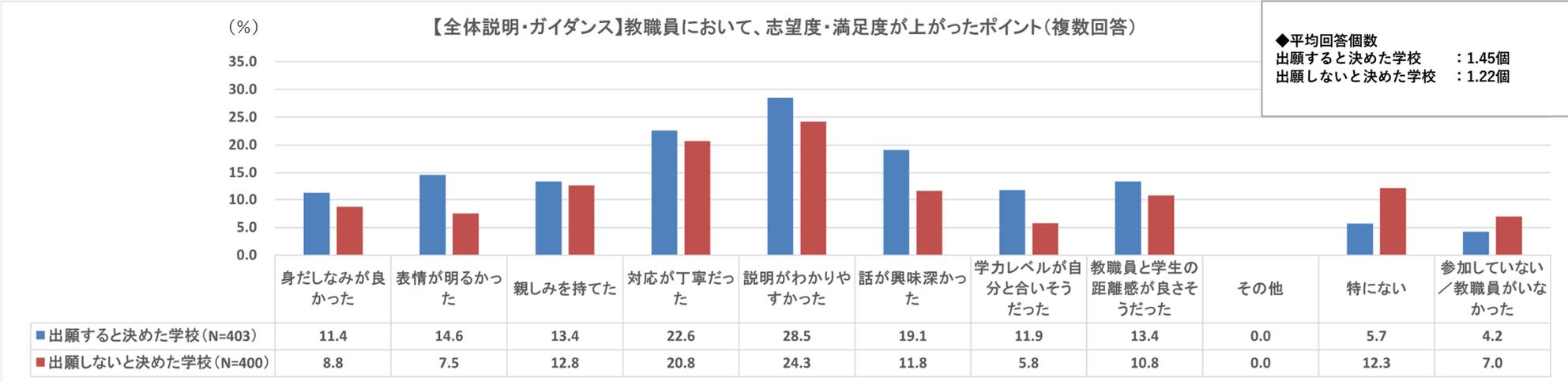
出願する／出願しないと決めた学校の差は大きくは出なかった。



Q. 参加したイベントについて、全体説明・ガイダンスの教職員において、志望度・満足度が上がったポイントがあれば全てお知らせください。

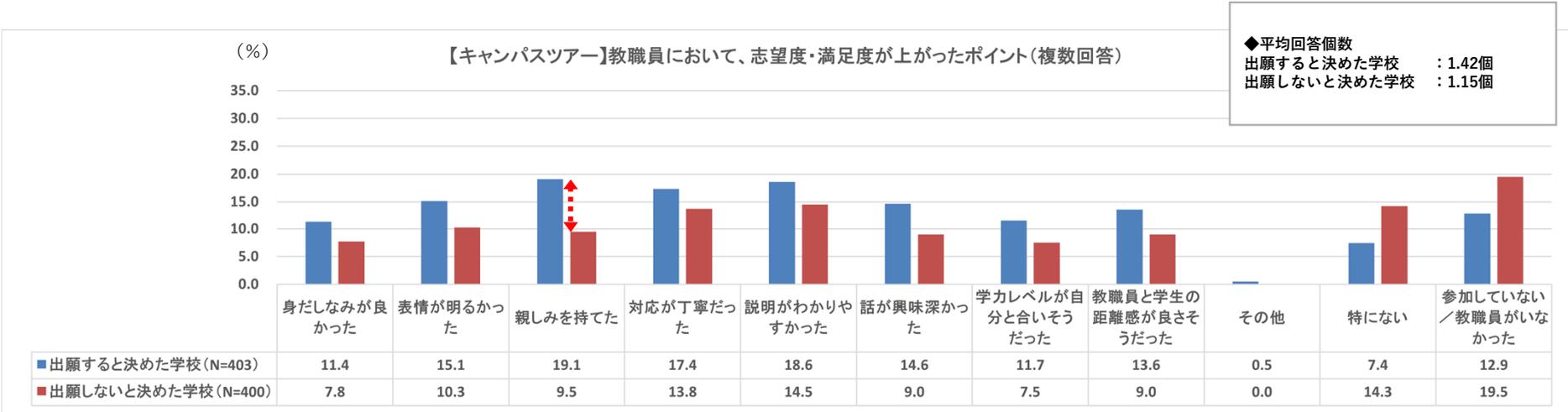
「説明がわかりやすかった」の回答割合が最も高い。

出願する／出願しないと決めた学校の差は大きくは出なかった。



Q. 参加したイベントについて、キャンパスツアーの教職員において、志望度・満足度が上がったポイントがあれば全てお知らせください。

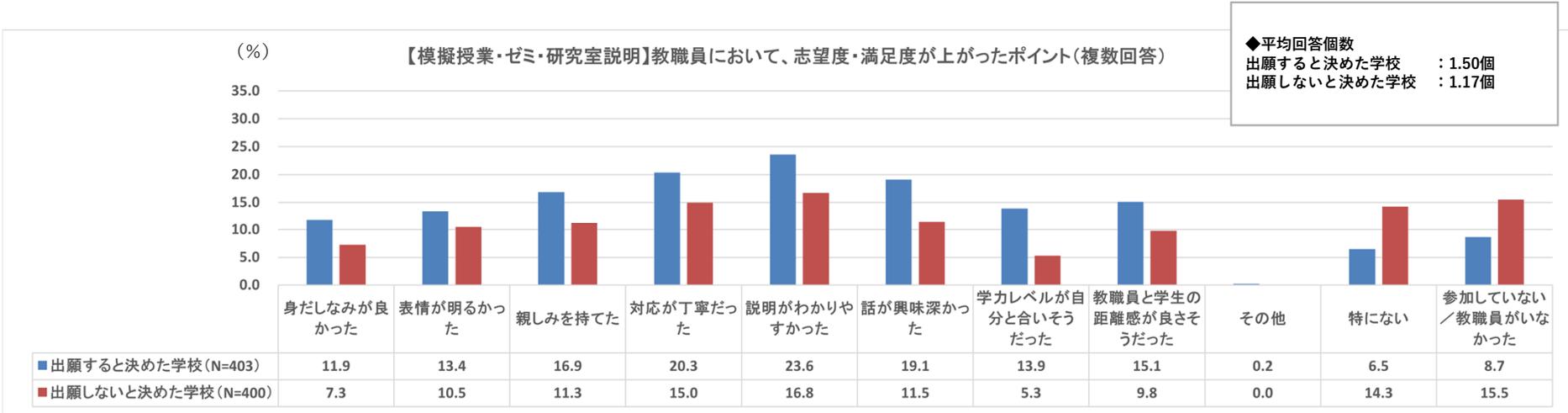
出願すると決めた学校で最も回答割合が多かった「**親しみを持てた**」については、
差が9.6ptと他と比べて大きかった。



Q. 参加したイベントについて、模擬授業・ゼミ・研究室説明の教職員において、志望度・満足度が上がったポイントがあれば全てお知らせください。

「説明がわかりやすかった」の回答割合が最も高い。

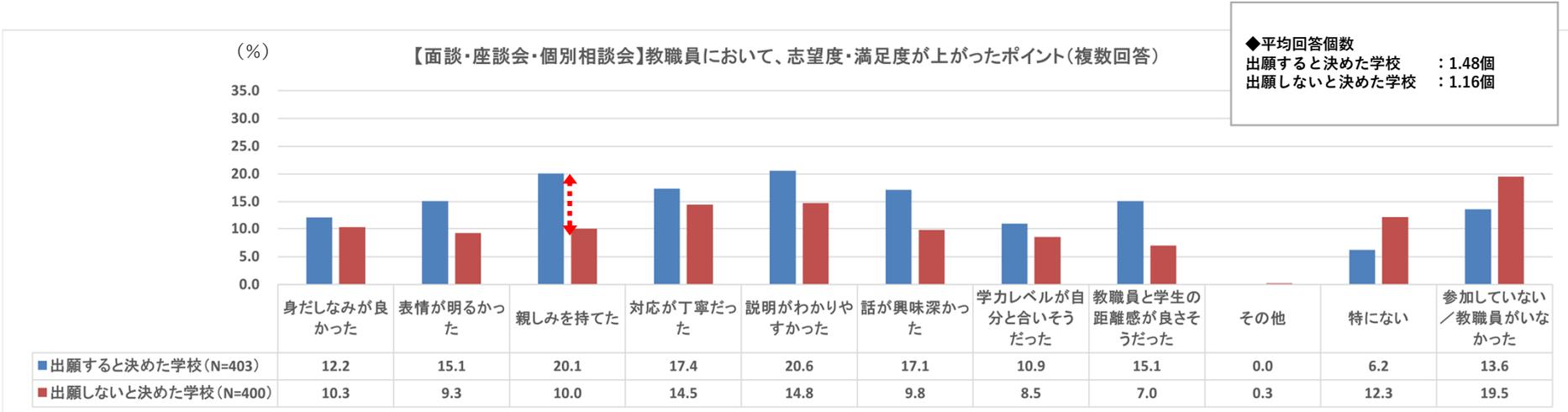
出願する／出願しないと決めた学校の差は大きくは出なかった。



Q. 参加したイベントについて、面談・座談会・個別相談会の教職員において、志望度・満足度が上がったポイントがあれば全てお知らせください。

「**親しみを持てた**」の回答差は10.1ptで、場面ごとの志望度・満足度が上がったポイントについての設問の中では一番差が出ている。

イベントの担当教職員に「親しみ」を意識して来場者と接してもらうなどの工夫が有効と言えそうだ。



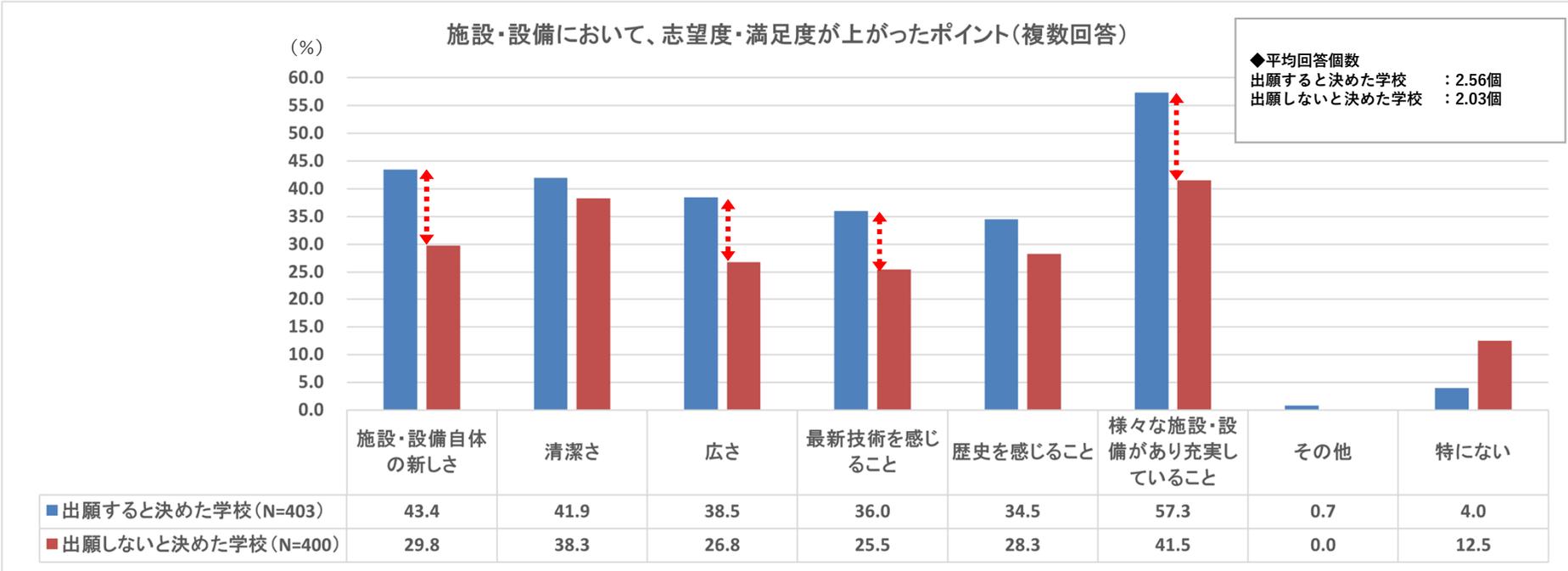
場面ごとの学生スタッフや在学生／教職員における志望度・満足度が上がったポイントまとめ

在学生でも教職員でも、多くの場面で大事なのは「説明のわかりやすさ」。
 加えて特に教職員の「親しみやすさ」は出願/非出願を分けるわずかな差となりそうか。

| | 学生スタッフや在学生 | | 教職員 | |
|---------------|-----------------------------|----------------|-------------|----------------|
| | 回答割合が高い | 出願する／しないの差が大きい | 回答割合が高い | 出願する／しないの差が大きい |
| 学部説明 | 説明がわかりやすかった | - | 説明がわかりやすかった | - |
| 全体説明・ガイダンス | 説明がわかりやすかった | - | 説明がわかりやすかった | - |
| キャンパスツアー | 学生生活を楽しんでいそうだった 対応が丁寧だった | - | 説明がわかりやすかった | 親しみを持てた |
| 模擬授業・ゼミ・研究室説明 | 説明がわかりやすかった | - | 説明がわかりやすかった | - |
| 面談・座談会・個別相談会 | 説明がわかりやすかった | - | 説明がわかりやすかった | 親しみを持てた |

Q. 参加したイベントについて、施設・設備において、志望度・満足度が上がったポイントがあれば全てお知らせください。

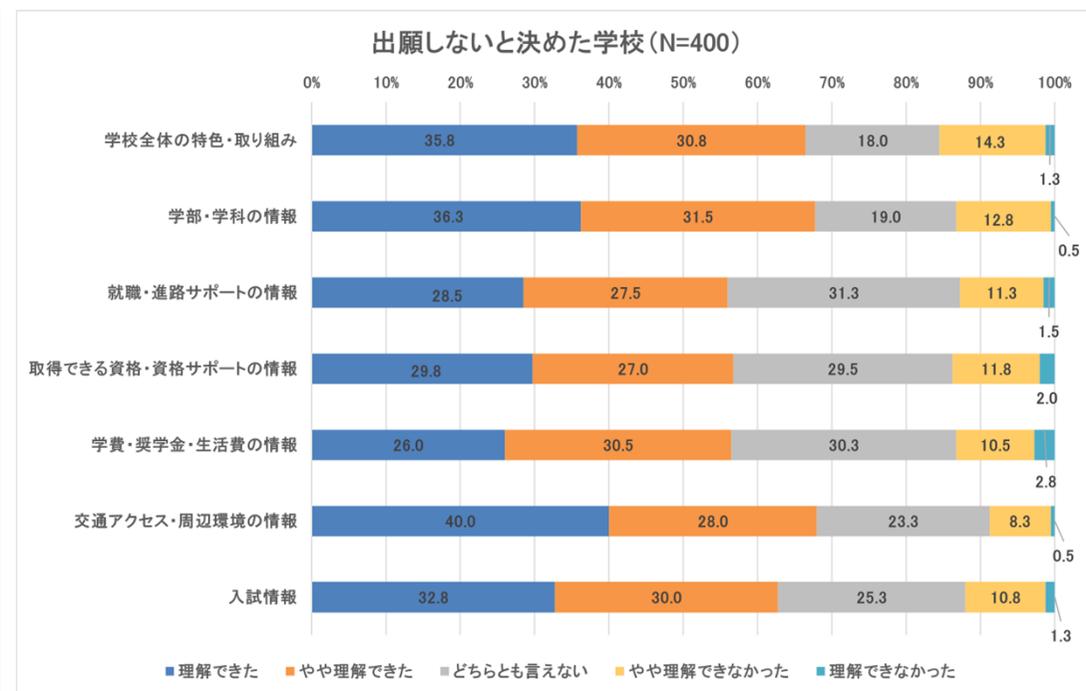
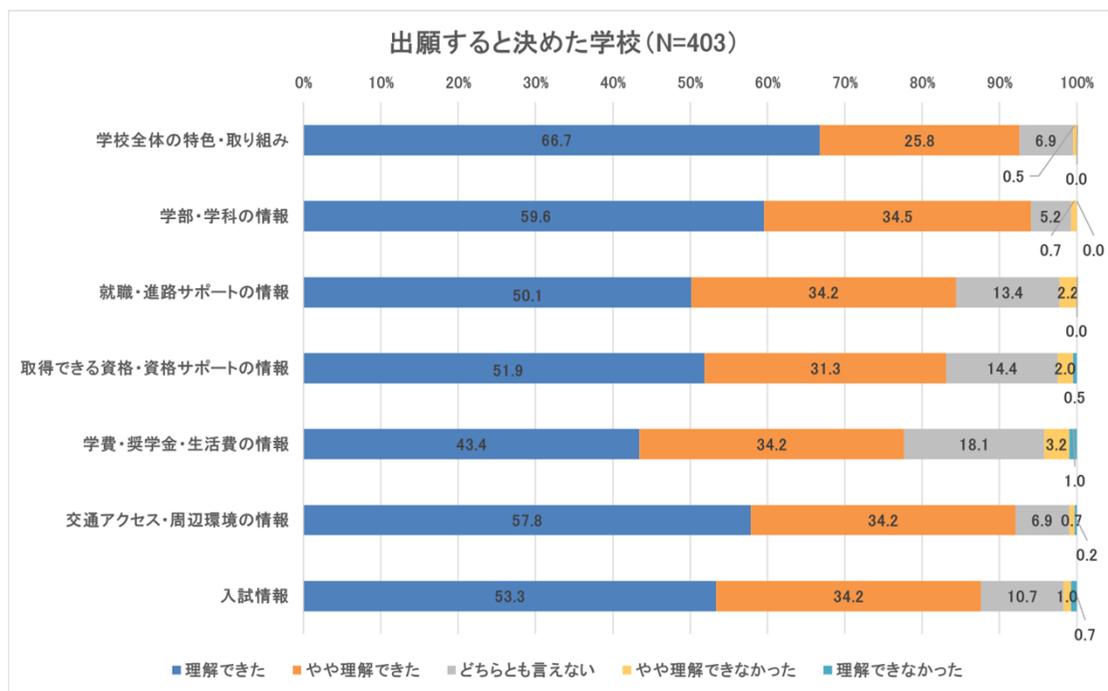
10pt以上の差が出ている項目が多く、「様々な施設・設備があり充実していること」「施設・設備自体の新しさ」「広さ」「最新技術を感じる事」の順で差が出ている。



※予備調査として、同じ設問内容でフリーアンサーで回答する調査を事前に実施。集まった回答 (N=130) の集計結果から、本調査の選択肢を設定した。

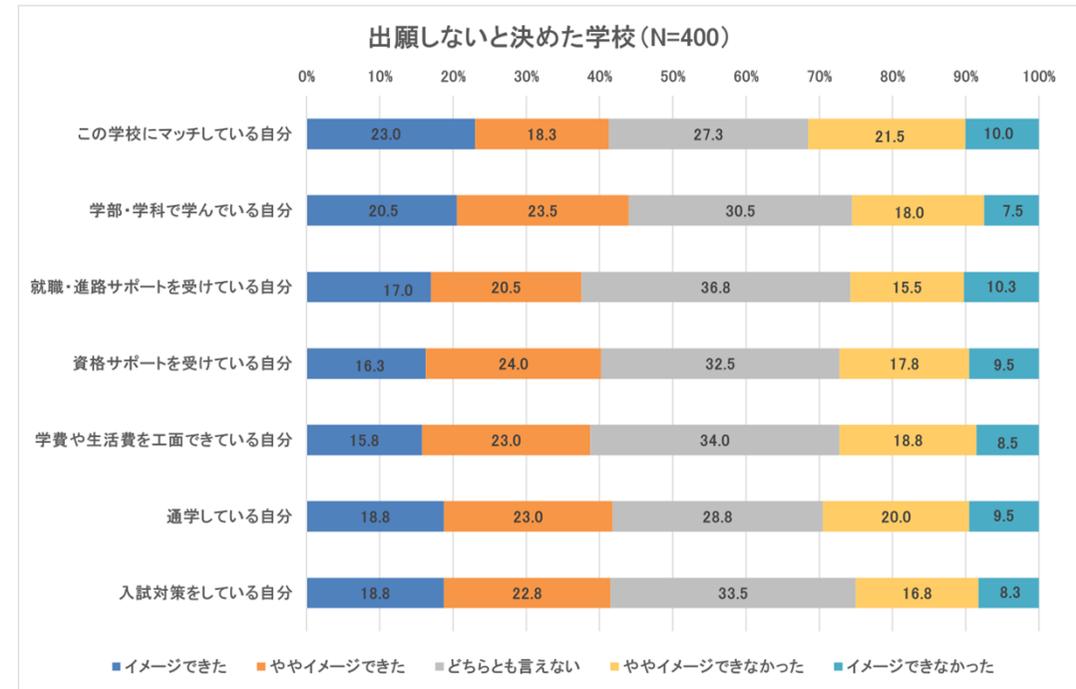
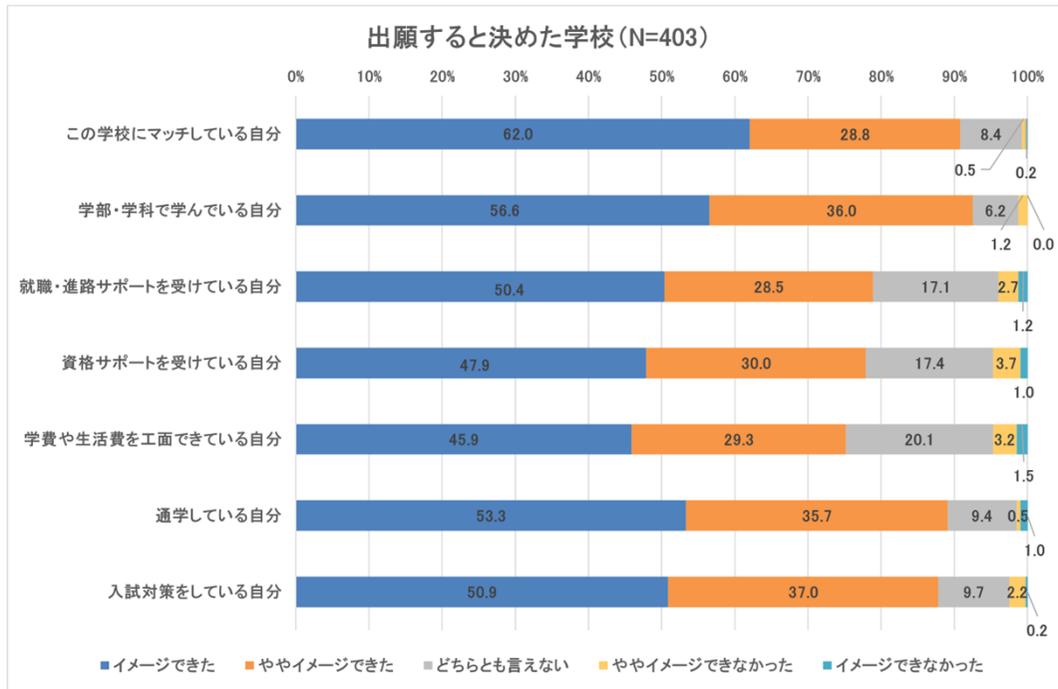
Q. 参加したイベントについて、参加後の各項目における理解度を5段階でお知らせください。

「理解できた」の回答割合は約20~30ptの差があり、
出願すると決めた学校の方が理解度が高いと言える。



Q. 参加したイベントについて、参加後の各項目における自分をイメージできたかどうかをお知らせください。

「イメージできた」の回答割合は約30~40ptの差があり、
イメージできたかどうかは理解度以上に出席有無に関わりがあるようだ。



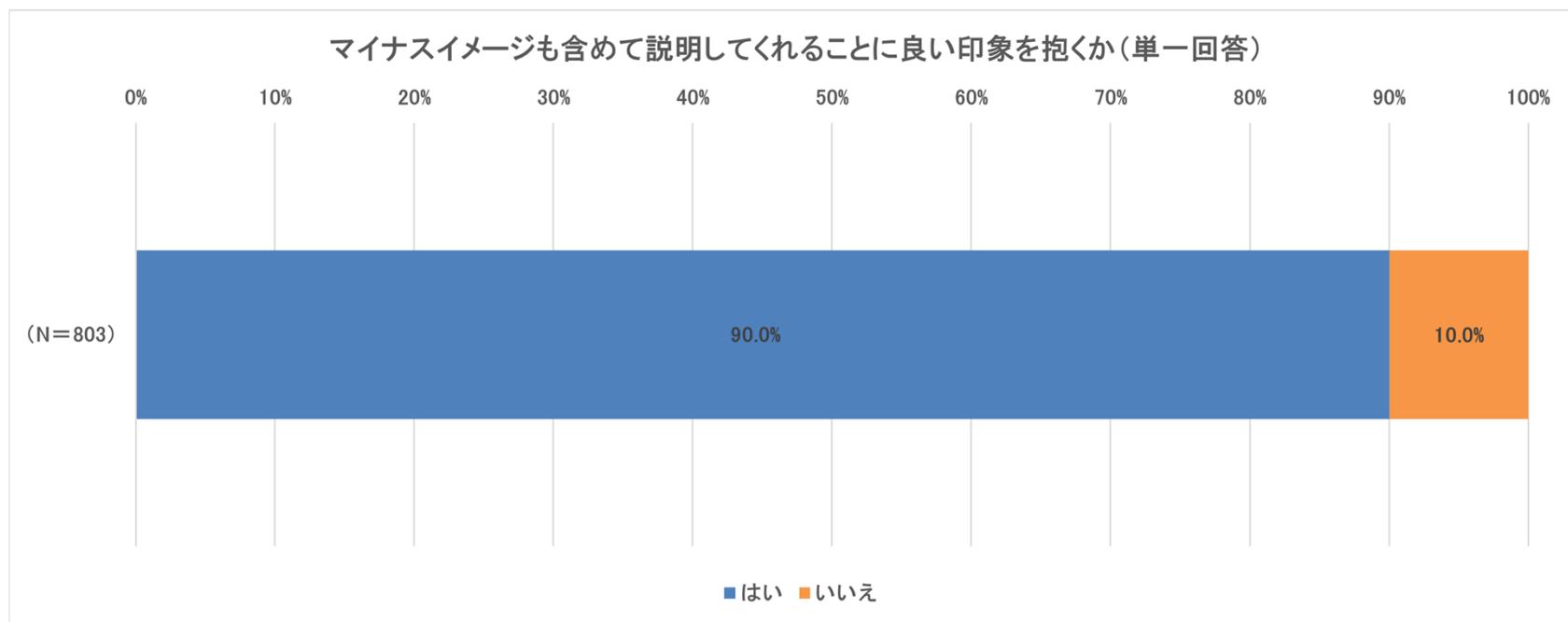


IV. イベント全般について オープンキャンパス参加の実態

2024年9月1日～9月7日実施の調査より

Q.あなたは学校がマイナスイメージも含めて説明してくれることに良い印象を抱きますか。

9割の高校生はマイナスイメージも含めて説明してくれることに良い印象を抱いている。マイナス面や一見して弱みに見える点も、ごまかさず伝える／良い側面も同時に伝えることで逆に信頼を与える。



Q.前問でそう答えた理由を教えてください。(一部抜粋)

「はい」と回答した人

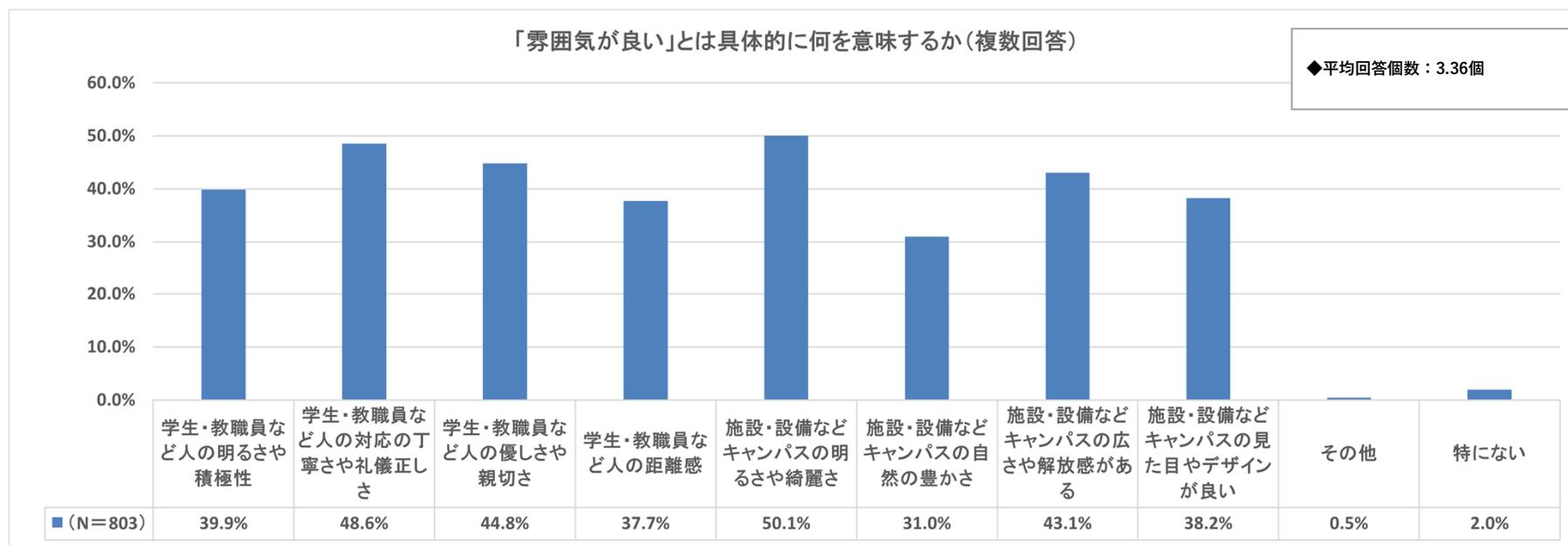
- 表向きの印象だけでは判断できない事もあるので、マイナスイメージもきちんと説明してくれると生徒側は、**より自分に合っているかどうかを判断できる**ことになる。学校の評価が下がろうとも、生徒の事を重視しようとする姿勢に**好感がもてる**から。
- 悪い面を隠して良い面だけ伝えると、悪く言えば受験生をだまそうとしていると感じる。悪い面をポジティブに変換して伝えるとか、得意な面が悪い面を上回るような説明があれば、**信頼できるし納得して受験出来る**と思う。
- いざ入学し、大学とのマッチングが合わなくて後悔はしたくない、無駄な時間を費やして勉強するのは苦痛である為。マイナスな部分も説明してくれる大学は**良心的で信頼できる**。
- 説明を聞いても、実際に入ってからでないといけないようなマイナスポイントは知ることができない分、マイナスな部分も教えてもらえると**その大学のイメージ自体が良くなる**。
- 良いこと、プラスポイントだけをアナウンスするのがあたりまえなので、入学前にネガティブな情報を与えてくれるのは**逆に親切**に思う。
- 入学してからのギャップが大きくなるようにマイナス面も伝えて欲しい。**伝え方の工夫でマイナス面もプラスになる**と思う。
- 4年間充実した大学生活を送りたいので、プラスばかりではなくマイナスも知った上で、色んな大学を見て決めたい。

「いいえ」と回答した人

- マイナス面ではなくプラス面が知りたい。マイナス面は個人的な要素もあるので、アドバイス程度にしてほしい。
- 対応された方がとてもイキイキと大学生活を送られている在校生のお話をしてくださったので。
- マイナスイメージがあると、進学後不満をいただくのではないかと感じる。
- マイナスなことだけ説明されて終わりなら意味が無いから。

Q.イベントに参加して、あなたが感じる「雰囲気が良い」とは具体的に何を意味しますか。

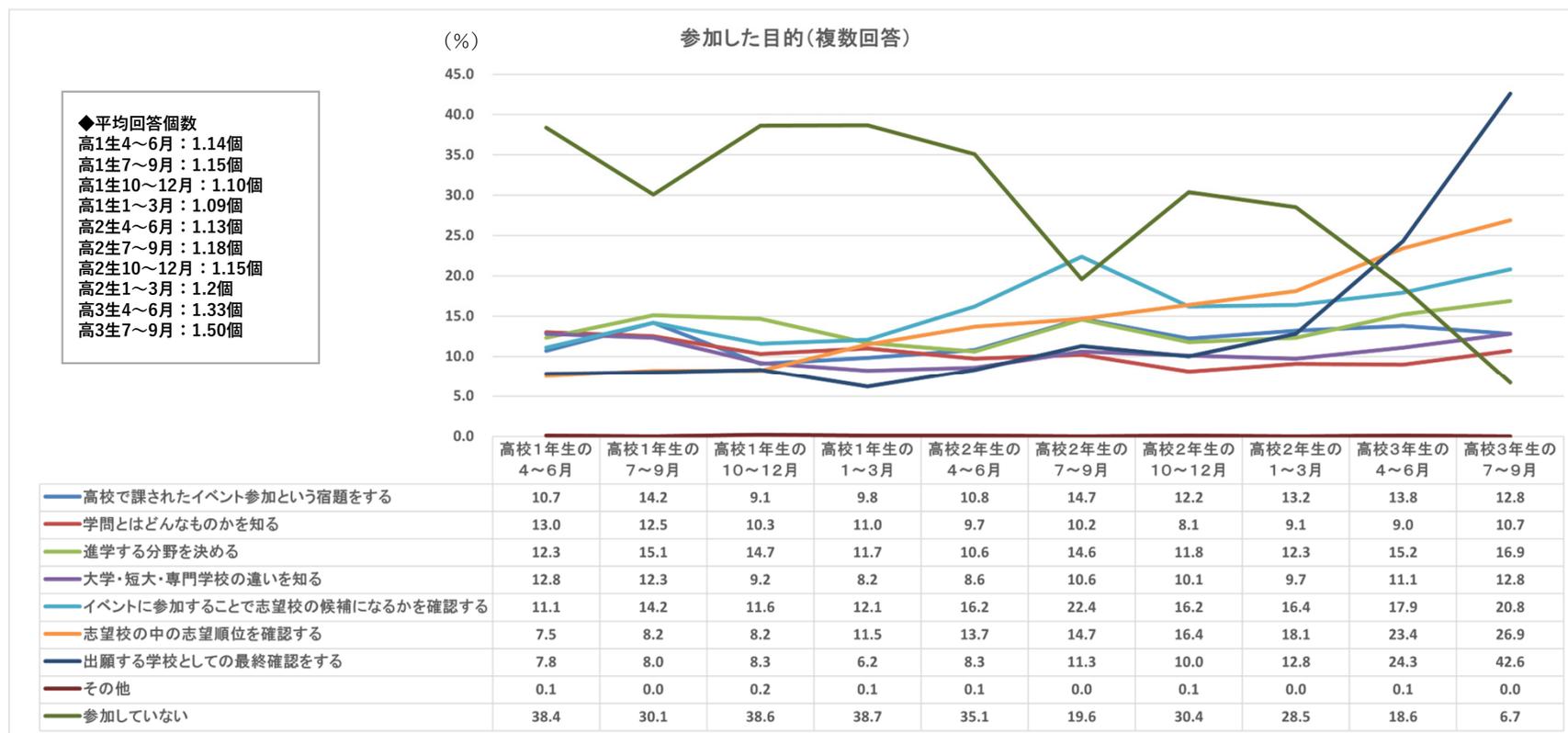
「施設・設備などキャンパスの明るさや綺麗さ」が50.1%と最も回答割合が高く、「学生・教職員など人の対応の丁寧さや礼儀正しさ」「学生・教職員など人の優しさや親切さ」と人に対する印象が続く。



※予備調査として、同じ設問内容でフリーアンサーで回答する調査を事前に実施。集まった回答(N=130)の集計結果から、本調査の選択肢を設定した。

Q.オープンキャンパス・学校見学会などのイベントについて、実際に参加した時の目的を選択してください。

高校2年生の夏は「イベントに参加をすることで志望校の候補になるかを確認する」、
 高校3年生の春から夏は「出願する学校としての最終確認をする」という回答割合が最多。
 各時期の目的を達成できるようなイベント内容を用意することが必要。



※ (N=803)



V.総括

「リアル形式」のイベント参加者が増え、「オンライン形式」は減少。 入学後の生活を具体的にイメージできるかどうかが鍵。

1. 参加のべ総数（推計）は、2023年度と比較して2024年度の「リアル形式」は増加し、「オンライン形式」は減少。アフターコロナの状況下では、「オンライン形式」のイベントは遠方の高校生をターゲットにするなど、「リアル形式」との差別化が求められる。
2. 出願する／出願しないと決めた学校の「満足度」の差は最大で10pt程度だが、「理解度」や「自分をイメージできるか」については20～40ptの差が見られた。出願への差は、イベントを通して高校生にいかに入学後の自分をイメージしてもらえるかに出てくると言える。
3. 9割の高校生は、マイナス面も含めて説明してくれることに良い印象を抱いている。マイナス面や一見して弱みに見える点も、ごまかさず伝える／良い側面も同時に伝えることで逆に信頼を与える。



マイナビ進学総合研究所

本データを出版・印刷物、WEBサイト等へデータを転載する際には、「※調査名」（マイナビ進学総合研究所調べ）と明記ください。

資料に関するご質問等に関しては下記までご連絡ください。

株式会社マイナビ 未来応援事業本部 企画統括本部 マイナビ進学総合研究所

E-mail : ms-souken@mynavi.jp

URL: <https://souken.shingaku.mynavi.jp>